

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

# 幼稚園の教育

主 幹

堀 七 藏

第 二 十 七 卷 二 月 號 第 二 號

口 繪 (ベスタロツチ肖像  
(アメリカ人形))

ベスタロツチ記念日…………倉橋惣三

ベスタロツチを記念す…………瀧谷義夫

幼稚園の課程について…………木下一雄

觀察材料の豫定について…………和田實

觀察の地方色 (二)

幼稚園雜草を讀みて…………磨須子

あ る 日…………おちば

お遊戯、海の上…………土川五郎

嵯峨野の膳女史…………倉橋惣三

雜 錄…………

東京音楽  
學校教授

中田 章

東京音楽學  
校前講師 楠見恩三郎共著

新刊

# 教範マ・チ・アル・ボム

大判全一冊  
定價金壹圓廿錢  
送料金拾八錢

爽快優美なる教育的世界の名曲此處に集る!!

本曲粹は編者多年學校音樂教壇上の實際經驗に徴し、英米獨佛露等各國の代表的作曲家の名曲中爽快優美にして専ら學校音樂教育本來の目的に合致すべき行進曲目曲を選定せるものなるを以て、小學校女學校等荷有鍵盤樂器の在る所必ず本曲粹常備の要ありと信ず、且又メロデーは管、絃樂器共に吹奏用に適すべきを以て一般音樂愛好家の各家庭に於ても絶好の指導たり得、併して本曲粹選定上著者の苦心の存する所は難に偏せず、易に於ても然も出來得る丈け體系的に基礎的に於ても正式な群書に頭角を抜けるものと確信す、如小學教師範學校・女學校參考書用として御使用を乞ふ。

東京女子美術學校教授  
山本キク  
先生新著

## 十三訂新撰裁縫教授法

全一冊洋綴  
插畫百餘  
定價貳圓貳拾錢  
送料拾八錢

透徹した理論と技  
神に入る實際の諸姉  
め文檢受験の諸姉  
現在裁縫教育界に於て技術と學理併用の趨嚮を明示せるもの本書の右に出づるものなし、本書の發行以來既に十三版を重ねたる事は、是れ最も雄辯なる立證たるべし、即ち斯界の權威山本先生は本書の發行最も豊富なる教壇上の蘊蓄を傾倒し、多數の插圖實例を示して體系的組織を以て學理と技術と指導の善し、知識として直髓を把握し得べしと信す必携を乞ふ。

文學士  
青木誠四郎譯

新版

### 保育學校實際研究

全一冊畫三十  
定價八拾錢  
送料六拾錢  
最近ニユーヨークに於てその實際を實驗研究せる結果であつて幼い小供の教育にあたられる教師保母諸氏へすむ。

文學士  
上野陽一著

新版

### 兒童精神檢査法指針

全一冊畫七十  
定價四拾錢  
送料拾八錢  
精神能力の發達の程度を測定する方を示し、知力の程度を診斷する方法を説き其結果を始末する仕方を明にした。

發行所 東京市牛込區 中野區 文庫館書店 電話 振替 東京 三三三 八三三 四三三 三三三 番七五番

覽台下殿族皇號每誌本賜

# 誌雜習學大

編輯會究研導指習學

東京兩高等師範學校  
廣島高等師範學校  
奈良女子高等師範學校  
府立中學校・女學校

各教官諸  
先生が毎  
號執筆さ  
れます。

## 男子幼稚園

◎特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たと好評さる(定價卅錢)

## 第一年生

◎一年生の人は全部お読み下さい、學校といふものな理解させ好にさせ天分を助長さす良雜誌(定價卅五錢)

## 第二年生

◎學課に彩色繪に讀物に光彩陸離、時間の經つのも忘れる。本誌讀者は全優等生。(定價卅五錢)

## 第三年生

◎初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、鄭解の學課も直ちに氷解さる。(定價四十錢)

(毎月一回一日發行)

趣味と學習を兼ねた雜誌!  
あなたを優等生にする雜誌!  
全國小學生間大評判雜誌!

## 女子幼稚園

◎男子幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術童話讀繪の稽古等兒童の好同伴(定價卅錢)

## 第一年生

◎群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績を優良ならしめる兒童の友(定價卅五錢)

## 第二年生

◎その人を見んとせばその讀む本を見よ一本誌の如き天下一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる(定價卅五錢)

## 第三年生

◎引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試験も少しも恐い事はない、諸君の救ひの神(定價四十錢)

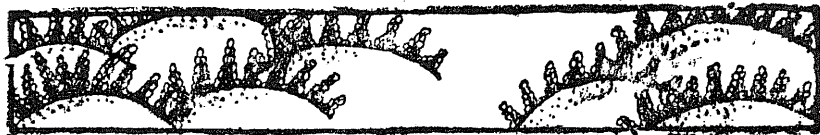
東京大阪  
一〇一六  
七五三八  
番番番

振替

館學小

區田神市京東  
番六町保神表

所行發



# 育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

主幹

贊助員

東京女子高等師範學校校長

東京女子高等師範學校教授

茨木清次郎

堀七藏

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校校長

龍山義亮

東京高師教授

太田孝之

東京女子高師囑託

土川五郎

慶應大學教授

大瀬甚太郎

帝國教育會理事

野口援太郎

東洋幼稚園長

唐澤光德

松江高等學校校長

乘杉嘉壽

早蕨幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

野上俊夫

帝國教育會會長

久留島武彦

東京女子高師教授

倉橋惣三

東京高師教授

澤柳政太郎

東京女子高師教授

弘田長

東京女子高師教授

佐々木秀一

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

松本亦太郎

東京市學務課長

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

榎山榮次

東京女子高師講師

藤井利譽

東京高等學校校長

三田谷啓

文部省

藤五代策

東京帝大教授

湯原元一

文部

福士末之助

東京女子大學長

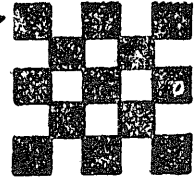
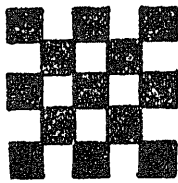
吉田熊次

谷本富

安井哲子

東京女子大學長

安井哲子



第 二 號      幼 兒 教 育      第 二 十 七 卷

—(次 目)—

口 繪  
(アメリカ人肖像)

ベスタロッチー記念日……………倉橋惣三…二頁

ベスタロッチを記念す……………澁谷義夫…五頁

幼稚園の課程について……………木下一雄…三頁

觀察材料の豫定について……………和田實…三頁

觀察の地方色 (二)

觀察の實際……………會澤タガエ…四〇頁

地方中心觀察指導豫定案……………田坂雪…四三頁

幼稚園雜草を讀みて……………磨須子…五頁

ある日……………おちば…五頁

お遊戯、海の上……………土川五郎…三頁

嵯峨野の膳女史……………倉橋惣三…六頁

雜 錄……………六九頁



倉橋惣三氏著

幼稚園雜草

東京市日本橋區大傳馬町二丁目

振替東京一  
電話浪花二  
三三四五六  
番番

内田老鶴圃

- ◆四六判特製美本函入  
◆定價金貳圓五拾錢  
◆送料金拾八錢  
◆紙數五百二十餘頁

教育の理論を説いた書は多い、方法を教へた書は更に多い。しかし教育の心を語つた書は少ない。とけわけて眞に幼児の生活に觸れた書は更に少ない。現代の日本が生んだ唯一の幼児教育の權威たる著者は、永くお茶の水の幼稚園の主宰として令名噴々たる人、本書は著者が多年幼児の間に在つて體得した獨自の感想と考察とを述べて、幼兒の生活を中心とした人間教育の眞意を味到せしめんが爲めに、教育者と家庭の母とに贈つたものである。或は詩趣に充ちた感想文があり、教育の理想國を描いた創作があり、或は著者の溫容を彷彿せしむる講話があり紀行觀察錄がある。豊かなる興味と深き感銘と清き教訓とは、そのまゝ著者の心より讀者の胸へ流れ渡つて盡きないものがあらう。

◆本書内容目次◆

ん▽か▽幼詩森大の月が正厳ひ家▽園  
を幼▽稚夏の主の災水來るのべ月▽ひ家▽園  
初稚園の會載幼とにた野き▽布たの自難  
に園稚園の婦▽へ春寒袋こめに然  
幼を園生 6 3 園兒る幼▽ふ風襪とこに  
稚終の活 應闕 教▽稚う▽▽の我  
園了此 接棧 育▽園る春親一子▽の  
に上 1 主のほろがし點ど教終  
送る▽幼 任森存奉境へも來むもの  
方新入園 7 の唇▽夏▽がる心體の日前  
方先を夏に夏へる▽心嫌し光途  
に達園は 究災生迎が立や雨へ新味もの  
▽に兒如 會が へ來ちす雨へる▽べ子人  
家▽を何 2 ままでみの外しら▽日間の  
庭を迎なる 8 のがつ▽後日へみ人うも  
と子へて 新茶 1 りたお▽後日へみ人うも  
幼きて處 人茶 5 て茶秋六望お尊は國大

幼稚園の教育は、幼児の身心を健全に育て、基礎的な知識・技能を身に付けさせることである。そのためには、遊びを中心とした活動を通じて、子どもの興味・関心を喚起し、自己表現や創造性を伸ばすことが重要である。

(目次終り)

## ◆ 幼児に聴かせるお話

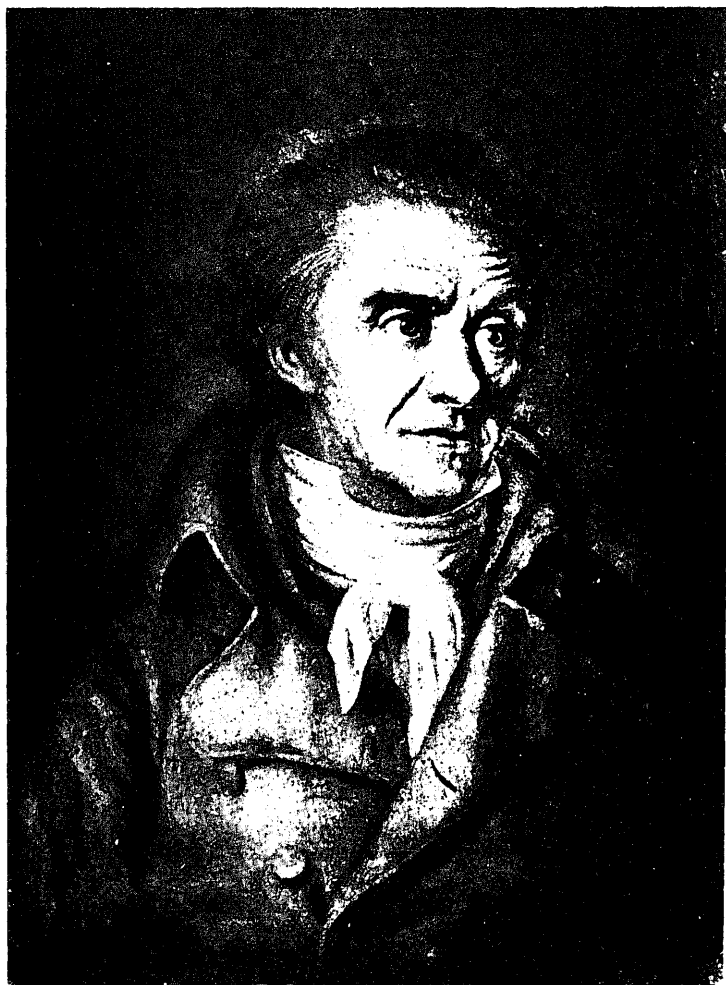
倉橋惣三先生序  
日本幼稚園協會編

定價參閱八拾錢  
送料拾八錢

## ◆幼稚園保育要目

萬國幼稚園協會案  
日本幼稚園協會譯  
倉橋惣三先生序

定價壹圓五拾錢  
送料拾貳錢



*Handwritten signature, possibly "H. V. L. S."*



アメリカから訪れて来たお人形





號二第 育教の兒幼 卷七十二第

月二年二和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

# ペスタロッチー記念日

倉 橋 惣 三

本月十七日はペスタロッチーの百年忌に當る。世界を擧げて、此の人類の偉人を記念しようとしてゐる。我國に於ても、全國の教育者は、それ〴〵の方法によつて、此の日の意義を深からしめようとしてゐる。既に幾多の教育雜誌は、此のために特別號を編輯して居り、また、全集の發行も計畫せられて居る。當日に於ては、各地に記念祭も行はれることであらう、多くの有益なる講演會も催されることであらう。皆以て、ペスタロッチーに對する、われ等の追憶と仰慕とを新たならしむる好機會たらざるはない。

しかも、われ〴〵教育者として、此の偉大なる教育者を記念する第一の心掛けは、此の偉人の前に、われ等自身を反省することではなければならぬ。此の自己反省なしには、此の日はわれ等に、何の眞意義をも齎らさないものである。

しかば、此の教育の權化の前に、われ等は如何なる自己を反省すべきか。ペスタロッチーは教育の學者ではない。故に、われ等の學問を反省するは此の日の仕事ではない。ペスタロッチーは教育事業の

所謂成功者でもなかつた。故に、われ等の事業を反省するのも、必ずしも此の日の業ではない。ペスタロッチーの前には、ペスタロッチーの眞乎の面目に於て、自己を反省しなければならぬ。その眞乎の面目とは、ペスタロッチーにありし、純眞なる教育精神そのものである。而して、ペスタロッチーの教育精神とは、彼の有名なる墓碑銘の言葉にある通り、凡<sup>レ</sup>て他の爲<sup>ニ</sup>に<sup>シ</sup>、何物も自己の爲<sup>ニ</sup>に<sup>シ</sup>せざりし、その純眞なる人格そのものである。此の人格が兒童のために注がれたもの、それが、ペスタロッチーの教育精神であつたのである。それが更に凝つて、ノイホーフの貧兒教育となり、スタンツの孤兒保護となり、ブルグドルフとミュンヘンゼーの國民學校となり、最後にイヴエルトンの學舎となつたのである。而して、此の教育精神こそ、ペスタロッチーの前に、われ等を最深く反省三思せしむるものである。

ペスタロッチーは、所謂幼稚園教育に従事した人ではない。しかし、此の教育精神の所有者をして、今若し來りて、われ等の幼稚園にあらしめば如何。幼兒教育者として、あなたの位置に代らしめば如何。彼れは、如何なる心を以て幼兒達の間に居り、如何なる態度を以て幼兒達に接し、如何なる實際を以て幼兒達を世話するであらうか。小さきわれ等の反省は、胸を責めて止まるところを知らないのである。

私は嘗て、スタンツにペスタロッチーの遺跡を訪ねて、あの建物の壁に倚りながら、當時の光景を、

まぎ／＼と思ひ惚んだことがある。こゝで、ベスタロッチーは、貧窮と粗野との孤兒達を集めて、その間に共に生活したのである。それは、ベスタロッチーの意味に於て、素より教育であつた。しかも私の目の前に見えた實景は、ベスタロッチーが、身を以てする、孤兒達の實際の世話であつた。子ども達の着物と食物と睡眠と、それに伴ふ煩瑣なる、うるさい雑事の直接實際の世話であつた。すなはち、愛護であつた。保育であつた。而して、なんといふ、親身な世話に、己が身も心も疲れを知らなかつたことであらう。教育。しかし、ベスタロッチーにとつては、それは、抽象的な、方法的な教師らしく立つて教ふる仕事ではなかつたのである。兒童愛。しかし、ベスタロッチーの兒童愛は、きれいな手を、子ども達の肩に置いて、長閑な笑顔に酔ふ、上品な仕事ではなかつたのである。われ／＼が、またしても、その高き理想と、深き思想家に於てのみ仰がうとする大教育家ベスタロッチーは、徹宵、子ども達の寢床の世話までした眞に眞に實際的兒童愛護者であつたのである。

そのベスタロッチーをして、今若し、われ等の幼稚園にあらしめば、——反省すべきは、われ等の、幼兒に對する親身の世話の足りなさであるまいか。

# ペスタロッチを記念す

東京女高師附屬小學校 澁谷 義夫

「此處にハインリッヒ、ペスタロッチ永眠す。千七百四十六年一月十二日チユウリッヒに生れ千八百二十七年二月十七日ブルツグに死す。ノイホーフに於ては貧民の救助者となり「リーンハルドとゲルト」に於ては國民の宣教師となり、スタンツに於ては孤兒の父となり、ブルグドルフ及びミユウシヘンブクゼーに於ては新國民學校の建設者となり、イフエルデンに於ては人間の教育者となる。眞の人間たり、基督教徒たり、市民たり。總て他の爲めに働きて、一つも私の爲めにすることなし。彼の名に幸福あらんことを祈る」

彼の墓誌銘はかくの如く述べて居る。これペスタロッチの一生を極めて要をつまみ簡約し盡して餘す所なき言葉である。

カント以來教育の根據に關する理論の傾向は二つの異つた方面に發展して來て居る。一つは即ち分析的であり心理的方法であり一つは即ち綜合的統一的な論理的方法であつた。然しながら其説を爲すものは何れも高遠な理論を説く人であつて未だ教育の實際に立ち入り、實際的な諸問題に直面することは

少なかつたのである。然しながら身を挺して教育の實際界に立ち入り貧兒の父となり孤兒の親となつて苦しくもあり煩鎖でもある此の教育の實務の中から、人間性を直觀し、「王侯の等きにあるものも、其日の食に窮する貧民も人間性と云ふものに於ては共に神より生みつけられた神の子である」と述べ「此の人の陶冶こそ教育の目的である」と云つて居る。

當時の教育の實際界は教師が既に知れる幾多の知識を兒童に物語り、兒童に話し、或は讀ましめて知識を與へることに専心に努力して來たのであるが、彼は兒童の内に萌す研究心を直觀によりて刺戟し木の成育し花の開くが如く、内に萌した求むる力を基として、兒童をして自から求むる力に加ふるに教師の技術を以て、其力を助長するに足る材料を與へやうとした。彼の言葉に従へば、如何に頑迷であり固陋な人間でも、如何に貧困であり曲げた性質を持つて居る人間でも物を直觀する力の無いものはない。此の直觀を出發點として、あらゆる智識の最も簡單にせられたものを秩序を追ふて求めしむれば如何なる人間でも其本性を發揮して行くことを得るものである」とし自然と人工との調和を極めて眞摯に求めたのである。哲學に於て其組織の仕方をコペルニカスの轉回を行つたカントに比すれば正に我がペスタロッチは教育の方法を正にコペルニカ斯的に轉回した人と云ふべきである。殊に其行き方はカントとは異つた。然し見つめた人間性の展開を企ることに於てカントと同一目標をねらつたのである。此のことは既に彼の有名なフイフテが彼自からペスタロッチを訪れて、彼に於ける偉大な仕事を認めて呉れたの

であつた。ファイテがベスタロッチを訪れたのは實に彼の卜居リヒタースウィールと云ふ村であつた。此處で「リーンハルドとゲルトロッド」の著者たる醜き相貌の持主ベスタロッチーに合つた。容貌の醜にして然も質素な衣服を纏ふて居たのである。當時彼は人類の發展に於ける自然の道理に關する研究をして居たのであるが此處にファイテと會ひ談を交せしに、相打ちたる氣合は二人を密著しめ、時の經つのを忘れしめた。然してベスタロッチは彼の裡にひそめる真理以外に何物も見出し得なかつたことを述べて居る。即ち經驗の導ける結果に即して知るものゝ外何も知り得なかつた。故にベスタロッチは他人の哲學を必要とはしなかつたのである。此の態度をナトルプは評して云ふ。「それは經驗を探究する新しき道であり、人間を發見する甚だ新しき方法である。彼以前の何人も此處に足を入れしものもなく何人も思ひ及ばぬ所であつた。」即ちベスタロッチは自己の經驗よりして自己の思想を生み出し、それを實現して行くことに最大の價值を置いたのであつた。彼の思想は己れ自身の經驗に基けるものなる故、發表に不用意であつたり、他人に分らぬ言葉を述べて居るのであるが、彼の云へる所のものに、如何に内面的な深みがあるかを直觀するがよい。然も此の直觀は自分の教へて居る兒童の心情に喰ひ入つた時に於て始めて爲されたものである。彼れの己れ自からの經驗の結果より推論し導き出した思想を築き上げて行く其態度其物は吾々から考へて見れば實に吾々の取るべき態度を指示したのではなからうか。實に彼は人生の真理を外に求めずしてこれを己が内に見出した天才とも稱すべきものであらう。

然も彼の此の思想は己が誠を子供に獻げし時に出て來たものであると云つてよい。實に七十年の間の苦闘と痛き失敗より生み出したものである。此の様にして生み出せる元の態度は吾人の多くが稱へるに忙しいのである。然しながら此の様な敬虔な態度と崇高な思想は如何にして彼ベスタロツチから出て來たか、今少しく彼の一生を熟視して彼の態度と彼の思想の依つて起りし點を明かにし、彼の死後百年を記念し度い。吾々に於ては彼が何年に生れ何を爲し何年に死んだと云ふことはさまで問題では無い。唯彼自からの體驗よりして世に明にせる經驗により思想を築き行く態度其物が大に價值があるのである。吾々は意義としてベスタロツチを認め彼亡き後の百年の今日、新しきベスタロツチたんとするの力そのものを禮讃するのである。然し彼の一生を眺め此の態度を得る手段とすることは無意味では無いであらう。

## 二、ベスタロツチの幼時

ベスタロツチは一七四六年一月十二日西瑞の國チユウリツヒ市に生れた。彼が父は醫師であつたが、彼が六歳の時死した。死の床に横はれる彼の父は、彼の家に來て六ヶ月しか經たぬ下婢バルバラシミットを枕邊に呼び、我亡き後は我が子供を見て呉れるやう厚く頼んだ。シユミットはこれを諾した。そこで彼は安んじて目を閉ぢたのである。其から以後は此の下婢はベスタロツチの家の家婦となり下女となり、出來る限りの力を出して此の哀れな一家を支へたのであつた。即ちベスタロツチは女の手ばかりで育つたのでつた。此の事が彼の一生に非常な不幸を與へたのである。彼が天性柔弱であり、興奮し易い感情



と活潑な想像とを有し思慮考察の周密を缺き事々に失敗を招きしは彼が父より嚴格の教育を受けなかつた結果である。父の死後は一家の經濟を餘程切りつめる必要があつた。その爲めに戸外に運動する時は衣服を汚損するとか靴を壊すとか云ふことが心配せられて、出來得る限り室内に蟄居をせねばならなかつた。その爲めに野外に出て男らしい活潑の運動をすることが出來なかつた。その爲めに男らしい心情男らしい運動性を發展させることが出來なかつた。實に彼は母の居室と學校教室の狭く限られた範圍の他世界を熟視することは出來なかつた。然しこれが一面に彼の性質を感激的ならしめ、深く神を信じ、盡きぬ愛情を惹き起さしめる原因となつたのである。彼の祖父の家がチュリツヒ在にあつた。此の人は教師をして居たが此處に來り毎年數ヶ月を送ることゝした。此の間に彼は實に深き博愛、同情を克ち得たのであつた。

### 三、學校時代のベスタロッツチ

男性の陶冶に於て缺くる所のあつたベスタロッツチは遊戲に於ても又運動に於ても不熟練であつた。其爲めに友人間の嘲笑の的となつた。然し彼が親切でよく他人の世話をすることはやがて友人共が彼を愛する原因とはなつたのである。彼は理解力に於ては非常に優れて居たのであるが、彼の諸學科に對する態度は種々であつた。其好める所は非常に熱烈であつた。時としては熱烈の餘りそれより重要なことを忘れることがあつた。心の向かぬ所には注意を向ける處が不足であり従つて熱を持つて來なかつた。其爲

めに彼の教師は彼の運命について正常の發展を遂げ得ないであらうとさへ見込をつけた。實に彼の此の時代のことを憶ひ出す爲めに彼の言葉を借りて云ふと「余は一番よい生徒の一人であつた。けれども常識のある人にはそんな馬鹿なと云はれるやうな誤を犯し、どんな劣等生でさへも犯すことを敢てせぬやうな過をしたことがある。余は事物の本質についてはよく正しく理解したが、どんな風にして理解すべきかと云ふ様な形式には無頓着であつた。それで國語の方面だけについて云つても、或る部分は級中の最優學生であり、ある部分について云へば級中の最劣等生であつた。學習すべき事項について云へば眞に之を理解すると云ふよりも感受することに長じて居た。又一面實際に役立つ様な事務的の仕事を輕視しつつ、一方に於てはかゝる仕事を大に役立つ様に實行して見たいと云ふ熱望を持つて居た。そして不幸なことは余の郷里の學校に於ける公民的一般的教育の精神は、兒童をして實地に練習さす様なことを一つもせずして、實行せんことを勧め努力せしめんとし、よく其技能についての空想を生ぜしめるに最も適したものであつた。獨立獨行、慈善、献身及び愛國は實に我が國民教育の標語であつた。然し此のモットーの實現に必要な實地能力の養成は少しも顧みられなかつた。」と云つて居る。

彼の學校期に於ける如き學校は今日一つも無いであらうか？ 兒童をして或は幼兒をして、出來もせぬことを出来るやうに空想せしめるやうな教育をやつて居る學校は無いのであらうか？

ベスタロッツは其後チュウリツヒに於ける高等學校に入り宗教を修め、宗教家として農民の保護救済

に力を盡さんとして神學の專攻に努力したのであるが、其後これを止めて法律を學び國民を救はんとしたのである。これは當時歐洲を支配する佛蘭西革命を逆さしめたルソウの説に感動した爲であつた。其後ルソウの著はしたエミールを讀んで後、彼の空想は愈々以て刺戟せられ感動せしめられた。彼は實に彼の母の居室や學校の教室で受けた教育とエミールとを比較し、從來自分が受けて來た教育は不具であるとし、此の不具な教育の救済は一人ルソーの教育理想のみが解決し得るものと見た。此のルソーの教育理想に刺戟された彼は、法律を學ぶことにより最も正しい理想的な自由主義を解し郷里及び祖國の爲めに最も多く貢獻し得る機會と方法とを得ることが出來ると信じ、宗教家たることを斷念したのであつた。當時西瑞にて官吏たり得るものは高位高官にある貴族の信任を博せねばならなかつた。然るに革命思想は此の貴族の受け容れ得ぬ所となり到底官吏となる事は出來なかつた。然るに生眞面目な彼は一心に勉強した。過度の勉強をした彼は甚だしく健康を害した。其爲めに一時勉學を中止した。然るに彼は當時歐洲を支配せる經濟思潮たる重農主義を讀み、農の重んずべきこと、國利民福の根本的資源は農業に依つて粗材を產出するに越した事は無いと固く信するに到り、學を廢して農を以て世を渡らんと決心した。そして一年有半農業を實地に學び、ビルなるアルガウの村に土地を求めて必要な家屋を建築し其全體をノイホーフと呼び新夫人を伴ひて人生の門出に立つたのである。

#### 四、事業への首途

茲に彼は十八世紀に於ける革命的社會改造家の一員としての出發をした。彼は後に教育の實際家となるが、彼は世の教育家の常なる止むなく己れの研究を餘儀なくせしめられたのとは違つて、社會改造の理想に燃えて行つた熱心な事業であつたのである。

彼は二十一歳の時自分の所持せる書物を悉く焼き捨てた。そして實に自然の子たる農夫となり終つたのである。彼の幼き息子ヤコブは實にペスタロッチの教科書となり、實驗臺となり、彼の家其者は實驗室となり研究室となり實驗學校とはなつた。

彼はルソウの考へた根本觀念を出發點とし、ルソウが單に見ただけの或る問題を彼は體驗し、痛き失敗を甜めつゝ、自分にもよく分らぬ自然の運動場たり教場なる野原に出て働いたのであつた。其後彼は其地方の貧民の子供を集め、此の子供等の惡癖を取り除き、邪惡の世に染まりし汚點を抜き、神の子たる人間性を發揮せしめんとしたのである。然し謠詐にして人を偽つて恥ぢず、人の目を盗んでは惡戯を行ひ、怠けては最善を盡せる如くに見せかける此等の子供は、生一本にして何等困難の實際に觸れざる好人物ペスタロッチを欺き遂にペスタロッチをして意氣に燃えた此の壯舉を中止せしめねば止まぬと云ふが如きことにして仕舞つた。そして彼は遂に彼が救はんとする貧民よりも餘程貧乏となり、夫人の持參せる財産を悉く消費するに至つた。彼は世人から笑はれた。嘲けられた。罵られた。然し當時の農民は謠詐をこれ事とし、するきこと狐の如く其眼を光らし、惡辣なること梟の如く暗に於てはあらゆる惡を爲

すと云ふ世態であつた。此處に於て好人物が彼等の救済を目的としたのであるから、ペスタロッチが彼等諂詐にして惡を爲して恥ぢぬ人間どもの喰物となつたのは無理からぬことである。

彼を目して實務の才の無いと云ふのは彼自身の述べし言葉を其儘受け賣りするが如きものであつてペスタロッチ以上の好人物の評であると云つてよからう。殊に理想にのみ燃えて民情をも調べず僅か一年有半の修養で農事に従つた彼が失敗したのは當然の道行である。

彼は遂に農場を閉ぢた。そして愈々事業に於ける改造よりも先づ人間の改良、農民の改良が農業の改良に先立つべきものなることを強く感じ、此の若かき失敗の經驗を基として隱者の夕暮なる本を著はし、後にかの有名なリーンハルドとゲルトルードなる書を出し世の母たる人の相談相手となつたのである。人心の改造は先づ家庭よりと強く考へた。社會改良の實を擧げんと努力しこれに失敗して名を小説に借りて其抱負を述べしペスタロッチの胸中こそ實に哀れでは無いか？

此の書について彼は云ふ「此の書の述べる所は地方の貧民及び保護の恩恵に浴せぬ者の心を汲んで發した余の最初の言であり、地方の人民及び放棄されたものゝ爲めに、神に代つて盡さうとする人の心情についての余の最初の言であり、田舎の下層社會の母たるものについて、父母の子に對する特別の心情について余の最初に發した言である」と。而して社會の暗黒面は一體何人が作るか、社會の墮落は何人が與つて力を爲して居るかを示し、家の母たる人の心得、人の上に立つものゝ心得を高唱したのであつた。

彼は此の書の發行後尙十七年間ベスタロツチはノイホーフに留り困難な生活を繼續し著述に従事した。其主なるものはクリストフとエルゼ及び「人類種族の發展に於ける自然の過程についての研究」と云ふのであつた。

## 五、スタジフに於ける慘苦

一七九八年ベスタロツチの後の生活に大なる變化を與へる事件が起つた。それは佛蘭西兵の瑞西滲入である。其爲めに同國は慘害を受け孤兒、貧兒の數は著しく増加した。此のことは痛くベスタロツチの心を刺戟した。そして或る長官の勧めに依つて一尼庵を借り受けて貧兒孤兒を收容して教育する様にした。最初五十名を收容したが後八十名に増加した。其收容した兒童は四歳乃至半歳の憫むべきもので路頭に迷ひ、食ふに家なきものどもであつた。子供は不潔であり不健康であつた。中には不良性を持つて居るものも少くは無かつた。收容所は狭かつた爲めに思ふ存分の活動は出来なかつたが、全力を盡して活動せる結果とにかく良好の成績を擧げるやうになつた。

此の貧兒の間に立てる彼は、兒童教授に關しても、屋内の注意をするにしても、獨力でこれをやつた。彼自身の眞の目的を達する爲めに自分一人でやる必要があつたと云つて居る。そして「總ての善良な教育に必要なことは母の慈愛に満ちた眼が一室内に於て、毎日、又は毎時間其兒童の心的狀態の變化を其眼其口及び顔色を見て確かに知ることである。又教育者の力は家庭内一切の關係を主宰する父の力である

ことを必要とする。私はこれを基礎として兒童の教導を始めた。私の心情が全く兒童に通じ兒童の幸福が私の幸福であり、彼等の喜びが私の幸福であつた。これは各瞬間に於ける子供の顔色や口唇から覺へることが出来た所であつた。彼等の精神に又身體に良いことが生じたならば、それは私の中から與へられたものであつた。兒童の受けた總ての補助や教訓は全部自分から發した。私の手は彼等の手の上にあつた。私の眼は彼等の眼に向つた。私の涙は彼等の涙であり私の笑ひは彼等の笑であつた。」「私は彼等が健全であれば、其間に立ち彼等の病める時は其間に坐した。私は彼等の間に寝り、夜は最後に寝ね、朝は第一に起きた。私は寢床に入つても彼等の眠るまでは彼等と共に祈り又彼等を教へた。且常に傳染病の中にあつて、危險を冒し、手のつけやうのない子供の衣服や、其體を仕末してやつた。さうする中に子供達は私を信用するやうになつた。」と。

彼は茲で自分の身をかまはず働いた。そして過勞に陥つた。然しながら教育者としての決心と自信は茲で作られたのである。然しながら幸と云はうか、不幸と云はふか一七九九年には佛佛蘭西はオーストリヤから驅逐されスタンツに來り、此を病院とした。ペスタロッチは其事業の中絶を悲觀した。然しながら此の事件なくば彼は休養すること能はずして必ず斃れたものと見ることが出来る。

彼は屢らく休養の爲めグルニゲルに滞在した。然して後彼はブルグドルフに趣き、一學校教師として立働くことゝなつた。此處で彼は嘗てスタンツに於て畫きし彼の教育法を實地に試みやうとしたのであ

る。此の時教育の監督官たるグレールが、彼の教育法を評して教育を機械的せんとするかと云つた時、これこそ眞に自分の目的や方法の本質を示すものとしたのであつた。彼は草本の自然に成長する有様から直観して、人間の生長發展にも同様の自然の順序あるものとし、此の自然の發達を助長する爲めに技術を以て兒童を導くこそ眞の教育教授であるとした。そして直観を以て總ての知識を根元とし、此の強弱・廣狹が個人の全思想の組織に重大關係を持つて來るものとしたのである。而して讀方等も初歩教授に於ては始めから口眞似で讀方を教へるやうなことを止めて、實物を觀察せしめ、同時に其名を知らしめる事とし、書方から始めるやうなことをせずして角、直線、孤線等を畫かしめ此の簡單な出發點から缺陷なき進歩を企つることに依つて獨立の生活を爲し得る識見と思考力を得るやうに到らしめんとした。然し彼の企ては校長にも父兄にも容れられざりし爲め、彼はブルグドルフの孤城を借りて自ら新學校を創設したのである。時の政府が彼の企てを認めし爲め彼は勇を鼓し、彼の事業に従ふと同時に、彼の教育意見、感想希望等を纏めて發表した。これが有名なゲルトロード兒童教育法である。

## 六、彼の教育思想

教育に關する彼の信條は次の如く纏めて述べ得る。

- 1、直観は教授の根底である。
- 2、言語は直観と綜合せねばならぬ。



3、學習の時限は判斷及び批評の時限であつてはならぬ。

4、どの科の教授に於ても教授は其科の最も簡單な要素から始めなければならぬ。そして漸次兒童の發達に従ひ程度を進むべきものである。即ち心理的に關聯せる發達の段階を追ふて進むべきものである。

5、休憩は各時間の後におくべきものであつて、どの兒童も新しい事實を理解し、それを自由に使用ひ得る準備が出来るまで時間を充分に與へねばならぬ。

6、教授は發展の道に従はねばならぬ。即ち獨斷的な説明をしてはならぬ。

7、兒童の個性は教師の尊重し神經視すべきものである。

8、初歩教授の主目的は兒童に知識を與へ、才能を授けるのではなくして兒童の心力を練るものでなくてはならぬ。

9、知識は此の心の力と結合せねばならぬ。即ち知らんとする物は考へると云ふ能力に轉換さるべきものである。

10、訓練に關係する限り、教師と兒童との關係は愛によつて打立てられ規正されねばならぬ。

11、教授は常に教育全體から見て、より高い目的に従はねばならぬ。

と云ふ様に述べ得る。

彼は實に兒童の心意發達の方法について訪ねた。そして右の如き意見を得たのであるが就中彼は其方法として

1、子供の感覺的印象の範圍を益々擴張せしめ、2、其印象を確實に把持せしめ、混亂せしめぬ様にし、3、自然と人爲が彼等に齎らし來れるものに對して言語の完全な知識を與へることにより自然の發達を助成し得るとしたのであつた。

即ち直觀を基として文化の最も簡單な要素を充分に熟達せしむれば、兒童の心意は自然に發達し得ると云ひ、子供等が充分な知識技能を有せぬと云ふのは其根本に於て不明の點あるによると云ふのである。そして直觀によりて得る感覺的印象が總ての知識の根元であるから、此の直觀を基礎として人知の最も簡單なものから陶冶をして行かねばならぬとした。而して人知を分解して得た最も根元的な單位は言語、と形と數であるとした。故に凡ての直觀的練習は此の三點に觸れるやうにし、此の三要素の初歩に完全な陶冶を受けたものは、よく自然の順序に従つて發達し得るとしたのである。而して如何なる教授も教育も必ず此の中の何れかに觸れしめねばならぬとした。

此の數、形、言語は如何なるものにも必ず存するが故に總ての知識の基礎である。此の三方面の發達は即ち吾人の高尚な知識の源の發達である。此の考へから彼は教授は言語に關するものと形に關するものと數に關するものとし、言語の教授は音の教授の一部に屬するものであるから、音の教授は個々の音を聽

き且つ發表することから始め、次に單語に入り最後に話す事の練習を爲さしむべきものとし、此の最後の練習に依つて直觀が始めて明瞭な概念にまで進められるのであるとした。形に關する教授は測量し畫き、且つ書くことを練習すべきである。線の種々の地位の直觀、並行線、直角、銳角鈍角二等邊三角形、四角形、及び異なる圓を示し名稱を教へ之をよく覺へさして後これ等のものを石盤上に畫かしめねばならぬ。紙に畫かしめることは誤つたものを永く保存することになる故に大なる惡影響を與へるものだと云つて居る。書くことも測量及び圖畫の附屬として後には話すことを學ぶ上の一課として練習さすべきものだとしたのである。

數については先づ一から千までの數を物につき直觀的に教へ、増減することの出来る實物の提示によつて多少に關する意識を生ぜしめ、次に各數に含まれた單位を明かに意識せしめ、單位を一とするか二とするか或は三とするかに依つて同一の數でも種々に分割され得ることを了解せしめ、これを抽象的に取扱ふことを必要としたのである。

作業については彼は大に此を尊重した。作業（構成的活動）は兒童の心力を發達せしめるもの、中最も確かなものである。何となれば人は學んだものによるよりも行つたものによる方が實際によほど發達するものであるからであるとして居る。

兒童が内に有する人間性は經驗の世界にある實在と實際に密接な關係を有するに相違ない。そして實

際の經驗から現實的な印象を受けるものである。兒童の自然は自然界に於ける自然の秩序に従つて印象を受けることにより自然に對する直覺が啓發せられ、道德に關しては、此の自然の性質に従ふ事により道德的に世界の秩序を印象に受け、之が啓發せられるのである。兒童の神に對する關係は兒童の母に對する關係に基く。幼弱な兒童と母との關係は廣く人に對する愛情感謝及び信賴の念を發達せしめ遂に神に對しても同様な感情を發せしめる。」「兒童の最初の敎授は知的の事項でなく理性的のものでなく、常に心情上の事柄であり感情上の事柄である世の事柄である。又敎授は理性上の事柄となるまでに既に永い間心情上の事柄として止まり、男子の事項となる前に永く女子の事柄として止まるべきものである。」母を愛するの情が總ての道德の最も簡單なものであり最初のものであるとして居る。

此の様に於て三四歳の子供を敎育して見たが七八歳の子供が最初から書物學校で學び得たものよりは遙かによく物を學び判斷することを得たと云つて居る。

つまり彼は兒童の心を内面から働かしめ、外部からこれを働かし指導しやうとはしなかつた。自然は始めから完全な形で兒童に存するものではない。自然は兒童の經驗が作り出す最後のものである。知識の最後の形は概念の發達を通して得られる。概念は混亂せる直觀より得られねばならぬ。然もこれは兒童が内に働かしめる力に依りて得なければならぬとした。カントが思惟に於ける大轉回を企てたと同時にベスタロツチは敎育に於ける一大轉回を企てたのであつた。

一八〇四年彼はミュンヘンブクゼーに赴き更に彼はイフェルデンに行つた。一八一五年十二月ベスタロツチの夫人が死んだ。それと共に彼は部下の教員を統ぶべき術を失ひ、其學校を死の思を爲して解散し、ノイホーフに赴き一八二七年ブルツクに於て二月十七日死亡し此の世と最後の別を爲したのである。嗚呼、彼死して百年、彼の理想は如何なる状態に進展したか？ 彼をして今日各國の國民教育の實際を見せしめたい。

### ——アメリカから訪ねて来たお人形——

文部省でお宿をしてゐるといふ、アメリカから訪ねて来た先着のお人形さんを見せていただきました。

今までに新聞やなんかで委しく紹介されましたから、もう御承知のことでございますが、各々のお人形さんは、みんな旅行免狀を持つてゐました。それには寫眞が添へてあり、名まへ産地は無論のこと、目の色鼻の形、髪の色口の形まで記入してございます。又向ふの少女から我國の少女に宛てたお手紙もあつて、それには、そのお人形さんの生活をくわしく知らせてゐるのでございます。旅裝も到れり盡せりで、丸で大切にされてゐる一人子の様でした。中でも、贅澤なお人形さんは、立派な手頃の革製のトランクを持つて來て居ました。その中には洗面道具、結髪、化粧道具、衣服類（夏冬、平常着、晴着靴、靴下、ハケ、何でもかんでもちゃんと整へて、幾通りもは入つてゐました。牧師さんらしい風采をしたお人形さんが、小形のバイアルを持つてゐるのには思はずも微笑させられました。うつむく時、目を伏せながらママーと優しい聲を出すなど、可愛らしくも驚くばかり精巧なものでございます。

何れは皆さんの幼稚園にも訪ねて行く事でございますが、一寸お先きに口繪で、寫眞を御紹介いたして置きました次第です。（編者）

# 幼稚園の課程について

東京府立女子師範學校主事 木 下 一 雄

現代の教育思潮一般よりするも、幼稚園の課程は幼兒をして出來得る限り、その本質的生活々動に適合せしめ得るやうに計畫されなければならぬ。即ち幼稚園教育の主眼は、幼兒の興味、要求暗示等に従つて、生活の内容を豊富にする所に存するのである。その課程は無論靜的のものであつてはならない。それらの興味要求等は幼兒の型と年齢とによつて様々である。また家庭その他の環境によつて異なつて來るのである。而してまたその課程は常に社會の進歩と一致することを要する。こゝに於て教師は子供の要求する所に合致する様に課程を組織し、子供の生活に價值ある活動

をなさしむる事が肝要である。課程の主要なる材料は、子供の關係する日々の生活經驗から取られるのである。子供の眞の生活狀態に即した活動こそ、そのオリヂナリテを發揮せしめることが出来るのである。それらの活動はカードを切つたり幾何的形態のものを取扱はせるより、どれだけ教育的價值を持つて居るであらう。

自由と活動とを許すことによつて、幼稚園は子供に社會的協同生活を體驗させ、また個人の責任感を養ふことが出来るのである。幼稚園に入つた子供は友達と一緒に遊ばなければならない。彼等は自分達の行爲に責任を持ち、義務を感じ、同時

に自分達の要求によつて學び得る様に許されねばならぬ。教師の指導の下にかくの如き方法によつて子供の經驗が發展されて行くのである。

幼兒が幼稚園を了つて尋常一年に入學するのは別人となつて行くのではない。同じ能力と同じ興味と同じ活動力とを以て行くのである。そこには幼稚園の幼兒として支配された教育と同じ原理が作用するのである。自己表現、創造力、判斷、觀察、思考の能力は、幼稚園から尋常一年に持つて行かれる。而してそれらのものを備へた子供は、更に續けて讀むこと、書くこと、數へることの仕事に取懸るのである。新しい課題に對するそれらの子供の態度は、正しい方向に正しい順序で發展したものであつて、その進歩は非常に早いであらう。

幼稚園は讀んだり書いたり數へたりすることに於て、形式的な作業を課するものではない。併し

乍ら子供は屢その遊戲生活の要求からして、それらの知識を得て居るのである。幼兒は毎日の生活經驗を通して、數を取扱つて居る。辨當の時に使用するナブキンを數へたり、作業をする時に必要な腰掛を數へなければならぬ。十四人居る所に、十三だけ腰掛がある時は、もう一つ腰掛を持つて來るのである。また本を讀むといふことは數へられないのであるが、先生が本文を讀み、子供がその繪を見るといふことが繰返されるならば、それで讀むことの基礎は出來るのである。以下各項について少しく述べる事とする。

音楽は幼稚園及び尋常一年の子供の大切な教育要素である。それはリズムミツクに或はメロヂツクに考へることの感覺を刺戟し、幼き子供の時代にも、調和といふ事の美的の喜びや、藝術心を發展させることが出來るのである。よい歌曲によつて子供の心に美しい音楽の經驗を廣めることは不可

能ではない。リズムはまた自己表現の手段であつて、無意識的に、機械的に、たと手一拍つ如き連續を意味するものではない。幼兒自身の方法によつて、自由に自發的に、しかも全身的になされる表現であると見るべきである。

次に幼兒の活動及び經驗に關係ある談話や童謡によつて觀賞へ導くことも價值ある事である。幼兒に對する話は單純で筋が通り、主人公の性格が明瞭に描き出されて居るがよい。談話の種類は子供の經驗及び活動から生れたもので、たとひ教訓を目的とする話も、子供の生活から生れたものでなくば、何等子供の問題とはなり得ないものである。話さるべき談話の數は幼兒の發達の程度に應ずるものであつて、新しい話は一ヶ月一つ位でよく、餘り多くの話をするとは、却つて子供の心を混雜させ、その價值を失はしめることになる。而して談話は子供がそれと十分に親しみ合ひ、自

分で話の出来る様に繰返される程がよい。話は述べ懷的でなく、具體的にあらはれる事を要する。幼兒にはまた一方に自ら話すことをさせなければならぬ。自ら話すことは、思想を言葉で發表する能力を増し、自らの語彙を多くすることにもなる。

幼兒はかくして尋常一年に進む準備をするのである。幼兒は度々自分を表現する機會を與へられると、たとひ貧弱ながらも喜んで話をするやうになる。子供をして自由に話さしめ、聞いたり答へさせたりすることは、子供の經驗を廣めることになり、子供の語彙を増し、明瞭な話方、正しき發音美はしき調子、一と通りの作法等をもこの間に養へることが出来るのである。

談話も亦一定の時間にするのでなく、毎日の仕事の中に折込まれる様にすることを要する。子供をして自分を發表するに自由を感ぜしめ、何か問題の起つた時に考へを述べ得るやうにすることが



大切である。その話す場合には、正しい言葉の形式を用ひさせ、不正な、語法にかなはぬやうな表現の習慣を矯め、先生は次にそれに代へるに正しい形式を以てする事が何よりである。

表現せんとする子供の希求は、むしろ幼稚の本性であるとするべきである。幼稚園はこれらの希求を紙とクレヨンと鉄と粘土とを與へて、自由に満足させてやらなければならぬ。かくして創造的の想像が發達させられるのである。その際の發表は技術が主眼ではない。幼稚園にあつては子供の活動から出來上つたものに價值があるのである。

幼兒は觀念から繪を描くので、外にあるものを描くのではない。また子供は思つて居る所を書くので、見た所を描くのではない。木を描く時には、地面の中の根までを描き、靴を描くならば、靴の足の足までも描いて仕舞ふ。その束縛されない發表の中に、自發的な發表のオリジナリティーや新鮮さ

がある。

自然研究は幼兒の遊戲生活の中に密接に關係あるものを材料とするのである。子供は自然について新しい經驗を持つことを喜ぶ。彼等は野生の花を集め、木に登り、蝶を追ひ、落葉で遊ぶ。雨の後で水の中を渡り歩き、木の實を集め、犬や猫と戯れる。自然に對する愛好は幼稚園の中まで搬ばれて行かなければならぬ。それ等のものはよき遊び材料であつたり、美しいものであつたりする故に、幼稚園教育の材料となるのである。子供が花で鎖を作つたり、落葉で遊んだりする中に、更に多くの問題を持つたならば、要求するだけの知識を與へられる。同じ様にして鳥の事も考へられる。鳥が巢を作るのを見たり、水を飲みに来たり、水に體を洗ふのを見る。子供はかくして四季の變化に興味を持つ。朝夕、雨の日雪の日を觀察する。子供はそれらを歌により繪によつて自分の感情を

發表する。

次に幼児は數限りなき社會環境の接觸物を通して、一緒に生活するものとの間に、「取り且與へる」ことを學ぶのである。子供はそれらの生活の間に、社會に於ける責任ある一員であることに適合せしめられる。環境に一致した生活をなさしめ環境に興味を持ち、これを理解するやうに導くことが大切である。

最後に「觀察」といふことを一つの課程と見てそのものだけを切り離して考へて見たいと思ふ。前述の如く、幼児が幼稚園から小學校に行き、更に上の學校まで行くのに、別人となつて行くのではない。従て觀察の如きも、程度によつて別の意味の觀察がある譯でなく、觀察の純理は一貫して居り、たゞこれを幼稚園に於て行ふ時に、特殊な具體的な方法が要求せられるのである。觀察の理論を知らないで直ちに實際に望むことは、當るこ

ともあり、或は全く外れて居ることもある。こゝには簡單に理論のみを述べることとする。

觀察は事實を忠實に經驗することである。觀察の際には、それが自然事象であつても社會事象であつても、常に出來得る限り自分のために働かせらるやうにして、その結果を觀察することが大切である。従つて觀察は事實をたゞ受動的に受取るといふのではなく、寧ろ構成的な要素が多いのである。忠實に經驗し、創造的に構成することが、觀察の眞義である。即ち我々はたゞ經驗するといふのでなく、「どうなるか」「どう見えるか」といふやうな態度を要求するのである。これがやがて上級の學校に行つた場合の思考作用の基礎となるのである。およそ或る事柄の經驗は、幼児の場合でも無意識に概括が行はれて居る譯で、觀察と概括とは必ず相繼續するものである。「日蔭にある草花の色は鮮かでない」「雨が多かつたので果物に蟲が多

い」といふ様な判断は、方法的に取扱つた科學よりも無論出て來るものであるが、幼稚園の庭でも必ず生じる概括であらう。

然らば觀察の指導を如何にするか。觀察の第一の仕事は數へ上ること、分類する事である。

(Enumeration and Division) これは石を拾つたり木の葉を蒐めたり、蝶を取つたりして、同種のもの異種のもの等に分類するのである。幼兒のこの仕事の範圍はかなり廣く行はれるものである。第二は統計的(Statistics)の作業をすることである。

自然または社會の現象相互の間に分量的に對應を考へ、現象の一致の存すること、即ち語を換へて云ふならば因果關係を試みることである。毎日の天候の模様を晴、雨、曇の三様にして、赤玉、白王、赤白玉にこれを配し、毎日一つ宛揭示して行つたならば、一箇月の終り、一年の終には立派な統計が出來るであらう。夏の頃、毎朝咲いた朝顔

の花を數へても、價值ある統計が出來る。しかも決して幼兒に無理な要求ではない。以上は靜的な觀察の指導であるが、第三は動的な觀察の方法が來るのである。その理論とする所は、一定の事情の下に一定の事情が生起する場合には、將來に於ても同じ事情の下に同じ事件が生起するであらうと云ふのである。(Causality) その理論より様々の觀察方法が生ずるのである。「花壇の草花がどうしても枯れる」といふことには、何等か先行の原因がなければならぬ。「信號が下つたから汽車が來る」といふのは、現象の共變を語るものである。或は鷹の嘴と小鳥の嘴と比較して類推させることも立派な觀察である。觀察の指導と稱する以上は、教師が少くともかくの如き態度を持つことが肝要である。

次に觀察の材料とは何を指すのであらう。およそ生活態の生活には必ず環境との交渉がある。

而してその生活態なるものは、高等になればなる程精神的となり、高尚な心の働きを生ずるものである。されば我々には無關係な物理的世界は環境ではないのである。この理より推して幼兒の觀察の材料となるものは、必ず主觀客觀の交渉のあるものを選ばなければならない。換言すれば幼兒の興味を持つものゝ中より、教師が教育的見地により選擇したものでなければならぬのである。この見方よりすれば、幼兒の興味を惹かないものは先づその觀察の材料となることが出来ないのである。

以上幼稚園の課程について大要述べたのであるが、今幼稚園の仕事を項目的に挙げれば大凡左の通りである。

### 一、社會生活

家庭生活の組織 父と母、兄弟姉妹  
 家族の義務 父の仕事、母の仕事、子供の仕事

家庭と家庭との關係

家政 必要なる家具の種類とその用

家に對する注意 光線、換氣、清潔、整頓等

家畜

商店

官衙、役所、會社

祝祭日の行事

願はしき社會の習慣 協同、親切、正直、眞

實、自立、品位、利己的でなき事

### 二、衛生

齒、手、髮等の注意

入浴、衣服、食物

### 三、言語

語彙を増すこと

正しき話方の形式

自由遊戲等を通じて話をさせる事

商標を見ること

#### 四、數へる事

芽を出し初めた種子を數へること

畑から抜き出した野菜を數へること(一例)

#### 五、音　　樂

リズム・ダンス、動作遊戲、行進、跳躍

樂器の名稱

四季の歌、祝祭日の歌

鑑賞、蓄音機で遊戲すること等

#### 六、自然研究

附記　本稿は大部分ピケット・ボーレンの「幼兒の教育」に據つて書いたものであります。

たゞ觀察の項だけは私の平素考へて居る一端を申上げた次第です。

## 急　告

昨年本誌十月號に掲載した樂曲『冬』は伴奏附きのもので、弘田龍太郎氏作曲、相馬御風氏作歌、東京市小石川區原町十番地東光閣書店出版『うちの燕』中の一曲である。作曲者の注意により同曲は伴奏を以て演奏せられんことを切望する。

## 觀察材料の豫定に就いて

目白幼稚園 和田 實

新幼稚園令に因つて、新に保育事項の中に加へられた觀察科に就いては各方面に於て、夫々研究の積まれて居る様子であるが、其材料其ものに就いて明細な具體案を欲しいと云ふ聲は大部諸方から要求される様である。併し、之に就いては、一方に豫定する必要なしと云ふ議論を主張する人もあるので、中には迷つて居る人もある様である。

今、其豫定を要さぬと主張する人の議論と云ふのを聞いて見ると、元來「觀察」と云ふものは一組織を有する學科ではないので、凡ての保育事項は活動の最初の部分に於いて、何れも觀察の階段を經過するもので、此觀察の階段なしに、子供の

學習なり、作業なりが進行するものではないのであるから、此觀察の働き丈けを別に抜き出して、一つの保育事項、即ち「授業教科」として取扱ふと云ふことは無理からぬことである」と云ふのが根本の理由であるらしい。一應、尤もなことを云はねばならぬ。成程、談話とか唱歌とか遊戯とか云ふのは材料其ものゝ名稱で、幼兒の活動の如何に係らず、其名稱に相當する事項は嚴然として別に存して居る。作業などは尙更に判然と材料其ものは幼兒の活動以外に存在して居る。此點から見ると「觀察」と云ふことは其内容が判然として居ない。甲幼兒に採つて適當なる觀察材料であるも

のも、乙幼兒に對しては既に々々無用のもので、一向教育的効果のないものであると云ふ様な場合も、随分、有り得ることだらうと思ふ。即ち觀察の材料は幼兒其のものを離れて、判然と存在して居るものでないのであるから、之を作業や談話や唱歌など、同一一肩を並べた授業科目、教授材料と云ふ様に見ることは無理である様に見える。

従つて、幼兒教育を極めて柔かに、所謂、家庭的に、且自然的に、餘り人工を加へぬ、壓迫の見えぬ形で行いたいと望む人々、即ち極めて、人情美を尊ぶ人々、人間味を高唱する人々の理想主義から云ふと、斯る別個人的の材料、換言すれば對手次第で取扱ふか取扱ふまいかの區別の判然せぬ様なものは、成る可く自然の機會に任かせて、幼兒の發達の経路上、當然の順序として辿り着いた所に、出會したる材料に依つて、適當なる程度の觀察活動を採らせれば、夫れで、充分でないかと云

ふ様になるのは當然の歸結らしい。其れは、至極美しい理想であり、教育的自然主義の極緻であると思はれる。吾々にも出来ることならば、斯る理想を實現する様な教育場に働いて見たい様に思はれる。併し、考へて見れば、是れは教育の根本の性質と現今教育界の組織とを混同せる矛盾の思想で、論者の主旨は至極尤な次第ではあるが、實行上の組織を無視した空想であることは、何とも致し方のないものゝ様に思はれる。そう云ふと、論者は、いや空想ではない。是れを理想とせねばならぬと云ふかも知れない。吾々は少しく是れに就いて考へて見やうと思ふ。

元來、教育と云ふものが對個人的のものであることは、否むことの出来ぬ事實である。教育の目的にしても、その方法にしても、學問としては、一般的に概念的に研究するやうなものゝ、具體的事實となつたときは、即ち甲の幼兒、乙の子供と

云ふやうに、書物の上での議論や一般的學制の研究でなしに、現實の當面の事實として現はれて居る教育的事件としては、何うしても各個人其ものを考へ、其個人の人生の目的を考へて遺らなければならぬことゝなるのは當然のことである。斯うなつて見ると、教育者が數十人を一組とした一團の被教育者即ち一つのクラスを受持つて、愈實地に教育を施す場合に於ては、教育者即ち先生の頭には數十人の子供の現在の發育狀態と、及び之に對する教育の方案とを一々別々に持つて居て綿密に各被教育者の要求に應じて行かねばならぬことになるのが、固より當然のことである。と云はねばならぬ。が併し、是が實際に行はれることだろうか。先生の頭は如何に大きくとも、如何に鋭敏であらうとも、又先生の手が所謂、六面八臂の「腕利き」であらうとも、是れは到底、萬全には出來ぬものである。所で之を出來易く、行ひ易く組織

したのが、即ち現今の教育組織である。即ち發達狀況の餘りに差違なきもの、一口に云へば同年輩のものを一團として、之を衆團的に取扱ふことに因つて、或程度迄は恰も、一人の子供を扱ふ様に取り扱つて行かうとするのである。此組織が出來て始めて教育と云ふ仕事が専門的の職業として成立するものである。若し、教育の仕事が其根本の對個人的性質を徹底的に實現しなければならぬものならば、即ち一人の子供に必ず教育者一人を要するものならば、今日の學校や幼稚園は到底成立つ可き性質のものではないと思ふ。勿論、中等學校が大學や高等學校に比べて對個人的注意を多く要するものであり、小學校が之に比して一層、對個人的綿密な注意を要するものでなければならぬことは云ふ迄もない。従つて、幼稚園に於ては尙更に小學校以上に各幼兒に對して、親切に綿密に注意する所がなければならぬことは勿論のことである。



はあるが、之を徹頭徹尾、實行することは逆も出来る話ではない。即ち幼稚園の様な所に於ては或る程度迄は對個人的注意の届かぬことのあるのは豫め、覺悟しなければならぬことの様に思ふ。此組織の上から来る當然の結果として、幼稚園に於ける教育の目的は、一般的に豫定せられ具案せらるゝのが至當であると思ふ。各個の幼兒から見たらば随分無用もあらうし、又無理もあらう、けれども見案なしに、教育を施す譯には行かぬ。其具案も各個別々に幾通りも作つて置く譯には行かぬ。即ち幼兒の全體を一個の幼兒と假定して、之に適當な教育的活動の經過を得しめ様として一つの案を立てるのは、現今の教育的組織としては當然のことではあるまいか。

「觀察」と云ふ名稱が、談話や唱歌や手工など、肩を並べる可き事項の名稱でないから是等のものと同様な取扱ひをするのは不似合であると云ふの

も一應尤もではあるが、見學遠足や、修學旅行、が立派な教育事項として、嚴然たる授業の一事件として具案せらる可きものとされて居る以上は、根本の性質を同ふせる「幼兒教育事項中の觀察」が其材料を豫定し、其施行の時を豫定せらるゝのは當然過ぎる程當然であるまいか。成程、見學遠足や修學旅行は一個の學問とは云へまい。之を數學や理學や論理學や史學など、肩を並べるのは不都合かも知れぬ。然も尙ほ、組織的に具案せらる可き教育事項たることに於ては異議を唱ふものがないとしたならば、是と略ぼ、性質を同ふして居る「觀察」が、たとひ、他の保育と肩を並ぶ可き事項の名稱でなくとも、又他の事項の何れにも附屬して居るものであらうとも、夫れは見學遠足や修學旅行が凡ての學科に關係すると同様な意味であると見做して、是丈け抜き取つて考へても差支ないではなからうか。否、斯くするのでなければ觀

察と云ふことは他の各保育事項中で行ふことは出来ないではないか。見學遠足や修學旅行が、各學科毎に其學科の授業中に別々に勝手に行ふことが出来ないと同様に「觀察」と云ふことも他の保育事項中に別に行ふと云ふ譯には行かぬものである。また、機會の起るに任かせて放任することは、之を行はないものと同様な結果になる事は從來の實際に徴して明かなることではあるまいか。吾人は幼稚園の組織から見て、之を豫定するのが當然のことと思ふのである。

幼稚園は之を幼児の日常生活の場所として見ては頗る狭小到過ぎる。其對する人々に於いて、日々起り来る事件に於いて、歩き廻はる場所の廣さに於いて、常に接觸する自然に於いて、何れも極り切つて居る。餘りに一定し過ぎて居る。之を一個の家庭に比べて、遙かに狭く、遙に一定で、極めて、事件が少ない。是は將來に於ける幼稚園の

缺陷である。其儘にして幼児が生い立つものならば、そして此外に普通の家庭生活のないものであつたとしたら、其觀念界の貧弱さは何なんであらう。彼の兩親が工場労働者で、子供は托兒所で育ち唯家庭とは兩親と共に寢る所たるに過ぎない子供が如何にも憐れな教育内容しか持つて居らぬのを見たらば思ひ半ばに過ぐる事だらう。子供を一日幼稚園に閉ぢ込めて置いて、其智識内容が廣が行くものと安心して居る親達があるとしたら、實に、幼稚園は教育の期待に背くものと云はねばならぬ。今日では、まさか斯様に考へて居る親達ばかりでもあるまいが、併し、世は段々とせち辛くなり、忙しくなり、兩親は子供と教育的活動を共にすると云ふ時間は、段々と少くなりつゝある。此時に當つて幼稚園や學校が子供の觀念界を豊富にし、廣大にし、正確にする工夫をしなければ、教育の効果は到底擧がる時があるまい。此意味か

らしても幼稚園が幼兒の直觀界を整理し、準備し教育の基礎の充實と擴大とを計劃することは當然の任務ではあるまいか。

教育上の豫定は、至上命令ではない。豫定したことも臨機の處置で他の材料に變更したり、時機を前後したりすることは少しも差支ない。豫定したのが爲めに起る弊害は何もない。教育的理論に通じ、實際に子供を取扱ふことの出来る頭と腕とを持つた教育者が居るならば、豫定表は參考となり便宜とはなるとも、決して、實際教育を邪魔するものではない。是は見學の場合や修學的材料を豫め期待したからとて何等妨げとならぬと同様である。夫れは、見學遠足や修學旅行を、或有限の數に極めて置く必要のない程、屢々遠足し、度々旅行することの出来る恵まれたる境遇にある子供に對しては、何も豫め何處へ何を見に行かうと豫定する必要はないかも知れぬ。家庭が生活に餘裕が

あり、幼稚園が非席に豊かな設備と機會とを準備して居つて、教育的に必要な凡ての事物を遺憾なく、是れを子供の直觀に提供し得る様仕組まれた、實に、恵まれた境遇の子供に對しては觀察材料の豫定などは、何も要らぬかも知れぬ。併し、斯る子供に對しても豫定表が何等弊害を持ち來たすものでないことは何も議論する迄もないことではないかと思ふ。之に反して教育者は子供の過去を忘れない爲めに、其經過して來た道を振り返つて見る必要の爲めに豫定表は大に役立つに相違ないと思ふ。此意味だけに、豫定表は必要と云つても差支あるまい。況して、斯る境遇の子供は自然にはあるものでもなし。之を實現しやうとするには豫定表は大いに必要となるに相違ない。

以上論ずる様な次第で、觀察材料を豫定することとは何等差支ないばかりか、幼稚園としての當然の任務として、幼兒の直觀界を達觀して、其大體

の範圍と程度とに就いて、一定の理想を立つ可きであると思ふのである。

偕、豫定は如何に之を定む可きか。昨年の本誌九月號に筆者が觀察に就いて、記載して以來、筆者の幼稚園に於ける豫定を知りたいと望まれる方が多い。併し、筆者の經營する幼稚園は極めて貧弱な設備しかなく、其經費も極めて貧弱であつて少しも範とするに足りない。諸方からの御求めに對しても、實に汗顏の至りで、實際の有り様は御話し出來ぬ始末である。併し、今となつて何等の案をも出さぬと云ふことは研究の義務を果たさぬことにもなるから、思ひ切つて愚案を公開することにしやうと思ふ。以下、少し愚案に就いて述べ様と思ふが、併し、是は何處迄も筆者の經營する幼稚園の案であつて、一般的研究の結果ではないことを御承知願ひたい。夫れから、愚案には年中行事、遠足、並に日常必ず直觀す可きものと認め

た事物に就いては之を豫定表から除いてある。是等は幼稚園内のものには誰にも其過去と現在と未來とが、はつきり、判つて居るので、別に記載を要さぬからである。又、豫定は新に經驗させる必要のあるものを記載して居るので、一旦、經驗したものを反復することに就いては何も記載してない。是は、子供の興味次第何度繰り返しても差支ないのであるが、夫等は凡べて、此豫定以外に行ふ可きものとして居るので表中に豫定しないのである。夫れに又愚案に豫定したものは、筆者の經營する都合上、最も、容易く得らるゝもの、最も容易く取扱ひ得るものにして、幼兒に興味ありと認むるものを主として上げて居る。尤も中には一つ二つ筆者の教育欲から、是は是非知らして置きたいと云ふ希望から餘り興味なさうなことも上げてはあるが、是は取扱ひ方で興味あるものとして彼等幼兒の前に提供し得ると云ふ見込の下に

入れてあるのである。例へば、二月の末に豫定し 是などは何か面白い實驗を工夫しても見せて置き  
 である、空氣の膨脹の實驗の如き此一例である。 たいと思ふのである。

目 白 幼 稚 園 觀 察 材 料 豫 定 表

月 週	自 然 物	玩具、機械、及實驗	圖畫、掛圖、標本等
月 四	一 豆、朝顔の芽生 二 梅、櫻、桃の花 三 雞と雛 四 兎	シャボン玉 ゼンマイ仕掛の人形と虫 ダンス人形 オルゴール	犬 豚、猿、猪 雞と雛 猫、虎
月 五	五 とうもろこしの芽生 六 たんぼぼ、筍 七 れんげ 八 つくし、よめな 九 小鳥	實體鏡 起上り、彌次郎兵、綱渡 りこま 角力人形 上野みやげ 鳴き鳥(機械仕掛)	獅子 大工作官等作業 都會の圖 小鳥いろく 猛禽類
月 六	一〇 かに、龜、金魚、目高 一一 蜂 一二 とかげ、かたつむり、な 一三 めくじ かへる及變態	ゼンマイ仕掛魚と船 平面鏡の反射實驗 萬花鏡 凸面鏡	猛獸狩 わにととかげ へび 蝶類圖譜

月 七	月 九	月 十	月 十一
一四 一五 一六 一七	一八 一九 二〇 二一 二二	二三 二四 二五 二六	二七 二八 二九 三〇 三一
でふ、が、變態 蟻、地虫 せみ、とんぼ はたる草、はたる草（イ ンキ吸上ゲ）	火に來る虫 鈴虫其他鳴虫 いなご、ばつた 里芋、かぶと虫 いか、たこ	栗とどんぐり 豆のいろく かまきり 果物の種子	くも ゆりの根ときやべつ 菊の花、分解 稻と米 こま鼠
凹面鏡 水中花 水出しいろく 噴水器	眼鏡のいろく 虫眼鏡 水車の米搗 寫真機 浮沈子 擊劍使ひ玩具 自働玉ハヂキ人形 笛のいろく 自動エレベーター	吊し飛行機飛行船 物の音 蓄音機 鳴獨樂 變色こま	農業圖 さめ、くちら 昆虫いろく だ鳥、つる かうもり つばめ、がん 羊、山羊 象、河馬 牛、水牛 馬、驢馬 運動會圖 海底の圖 閱兵式の圖
軍艦 飛行機、飛行船 狩獵圖、鴨、雉子 都會鳥瞰圖 風景圖			

月 三				月 二			月 一			月 二 十		
四二	四三	四四	四五	三八	三九	四〇	三七	三六	三五	三三	三二	三四
貝類	うにとひとで	なまこ	みず	鳩	金と銀	銅と鐵	雀	魚の形	えび類	あひる、かも	栗鼠トもるもつと	つらゝ、雲、あられ、霜柱
風船飛ばし	水のお化け(色の變化)	酢貝の運動	飲めぬサイダー	靜電氣	續き	呼鈴と豆電燈	實物幻燈	活動寫眞	活動寫眞	廻り燈籠	磁石	雙眼鏡
貝類	地理風景	人種圖	神社	女禮式	大戰圖	偉人肖像	儀式的圖	服裝のいろく	漁撈圖、魚類	孔雀、七面鳥	大佛圖	五重塔、佛殿

以上、材料は大體に於て、其季節々々に相應し  
た所に於て置いて置いた積りである。が、併し、必ず  
しも季節に拘泥はしない。又物に因りては時候を  
始めから無視して居るものさへある。掛圖類の如

きは夫れである。  
豫定材料の取扱ひ上の注意に就いては、本誌昨  
年九月號の記事中に大體之を指示して置いたから  
今茲に重複することを避けやう。

# 觀察の地方色

(二)

## 觀察の實際

奈良女高師  
附屬幼稚園

會澤タガエ

觀察の實際に付てお答へ申し上げますので御座います、新たにかかる案をつくつたと云ふのではなく、當園で只今までやつて參りました實際の一部を記しましたので、尙々大に研究を續けて行かなければならん事と存じて居ります。

便宜上自然界に屬するものと、人事界に屬するものとの二つに分けて認めます。

(冬期間と云ふので御座いますから、ここに十一月末から翌年の二月迄の事を認めます。)

一、自然界に關するもの

1、動物に關するもの

魚類、金魚、鯉等の成長(當園の池にて飼育)  
蟲類、秋の蟲の行方、蟻の巢籠(當園遊園に於て)

鳥類、羽毛の變色と冬期の狀態(當園鳥舍内)  
獸類、白鼠、猿、兎(自力の防寒の準備等)

(當園飼育)

2、植物に關するもの

花卉類、水仙、寒牡丹、シネラリア、マーガレット、福壽草、竹、西洋櫻草、ゼラニウム  
南天、梅、猩々木、山茶花、クリスマス樹等  
多くは當園にて幼兒と共に栽培、溫室物は時々本校に引率親しく室内にて觀察せしめ、時ならぬ胡瓜、茄子、莓に幼兒を驚かしむ。



當園にても冬期中植物保護の目的をもつて  
フレーム三個をつくり種々の花卉を幼児と  
共に栽培する計畫にて現今着手せり。

果實類、柑橘類は本校果樹園に引率。

ドングリ等は園外保育の際山又は林にて拾  
ふ。園内にも或種のものあり。

穀菜類、稻刈、秋の收穫に續きて其の後の田  
畑の状況(豆、春蒔等)

同時に取殘されし案山子、鳴子等。

野菜、蕪、大根、葱、菜(色々)春菊、牛蒡、

ほうれん草等、一部當園栽培。

當園内の餘地を悉く花壇、菜園とし花卉に加  
ふるに穀菜類を可成多く幼児と共に栽培し收  
穫物は幼児に試食せしむる目的にて現今着手  
せり。

尙保姆は、山又は平地の四季時折の花卉を生  
花とし幼児の觀察用に供し居れり。

### 3、鑛物に關するもの

砂(河の白砂)石(外遊に使用)粘土(内外にて  
使用)

### 二、人事界に屬するもの

春日若宮祭(十二月十七日)行列拜觀。

年の市實際觀察、光景、店飾り等。

クリスマス、實際。

お正月、餅、床飾り、門松、しめ飾等。

遊びとして、獨樂、羽子板、羽根、凧、毬等

消防出初式(一月六日)實地觀察。

節分、當地特別の行事あり、實地觀察。

紀元節、當地傍畝御陵に近き爲特に實地參拜又

これについて神武の東征を偲ばしめ昔時の武  
器、弓と矢の實物觀察等。

### 三、自然現象

霰、雪、氷(ツララ)霜等。

大要右の様で御座いますが、お正月の遊び、節

分、紀元節等については随分種々の方法で遊びますから其の遊びについての色々の觀察も充分にいたします。

尙三學期の終りから三學期の初、中頃にかけてまして氣候の都合上、花壇、菜園もお眠りの時期で御座いますし、園外に引率いたします事も多く出来ません。其れで當園では其の時期を利用いたしまして最も子供の喜びます玩具に多く親しましめ、尙木片（木のきり残り、かまぼこ板、三寶穴のくりぬき）等を持ちまして幼兒自身に玩具を製作せしめ、其れを弄ばせると云ふ様な事をいたして居ります。幼兒には少し無理ではないかとのお考へも御座いませうが、幼兒の自由に任せ置きまして製作せしめますと、かなり面白いものが出来ます。いくら貧弱なものが出来上りましても自分が製作したと云ふ喜びは、むやみに店からただ買つて来た高價な玩具を與へられる時の所ではありません。

ん。實に喜び弄ぶので御座います。出来るならば容易に出来ます設備がほしいと存じて居りますが家もなし又幼稚園の事とて充分と云ふわけには参りませんが、ぼつぼつ都合のよくなる様になつて参つて居ります。

## 地方中心觀察指導豫定案

今治幼稚園 田坂 雪

豫洲の地と云へば日本全國の方に何の強い／＼思ひ出も與へない。四國の一隅に過ぎないもので有る事を知りませう。それさへ思ひ出してもらへない位に大日本帝國の上からは僅な都會、慥かに文化の都會の其よりは遅れて居、特に我今治市漸やくに近年四國一の開港場となり鐵道開通と共に海陸共に交通繁く四國のマンチエスターを以て人も我も任じて來た。

一方に多くの恵まれたる自然により都會人の受くることの得ざる清い／＼ものを與へられてゐる事をブラウドとするに足る可を信ず。

在京當時「四國に山があるか、田があるか」と尋ねられし、此の別天地南國の暖さ自然に恵まれし此の地を！記憶の中に入れてもらいたい。この中に育つ幼兒達その指導よくば、決して都會の幼兒達に劣るべきかと！

西南に四國アルプスを連れ市の後方に廣く平野をひかへ東北内風光明美の瀬戸内海の大島小島に面す。白砂緑松波靜に暖風常に市上を吹く、嚴冬と云へども積雪なし、夏來りなば海水浴望がまゝ、水清く遠淺にまかせ沖遠く貝採り魚つり又山紫水明の所、意のまゝに得らるゝこそ幼兒の上に幸甚なり。年中鮮魚聖果絶えまなく綠葉のうちより黄ばむ熟せる果物を手にするはいと易き業なり、春は岡に草摘み夏海に漁づり秋山に茸取り冬來るもそ

の果物に盡くる事を知らず。市中植物園なくも動物園水族館なくも此れら常に季節により豊富に、周圍は幼兒達の生活を豊かならしむ。

伊豫白綿タオル特産工業盛に一步市外に出ずれば鹽田漆器の業此うしたもので幼稚達周圍を巡らしてゐる。南朝忠臣の戦ひのあと國分寺村近く歴史的舊蹟多く底の底迄澄み切つた小川に砂橋をかけたたり桃太郎遊びに洗濯などするは。松かげに本讀み、山の穴にコブ爺さんの出かけるなど如何に童話の國に遊戲の國に時を過し得るか恵まれたる自然の此町の自然を如何に善用し彼らの生活内容を豊富ならしむるかに苦心す。其材料の選擇と觀察方法の宜しきを得幼稚園遊び幼稚職能の發揮に努力し折角に斯く恵まれたる田舎幼兒達の上に保育の完全を皆様の深い御指導により有らん事を祈りつゝ愚案を提して擱筆とす。(一五、一二、一一)

月	觀察主要項目	人事界	取扱注意連絡事項
四	<p>一、自然界ノ新生  A、オ花見、桃・櫻  B、摘草、れんげ、たんぽぽ  よもぎ、すみれ  よめな、おほばこ  C、園内花制作リ  朝顔種マキ  瓜種マキ  D、鳩、猿ノ觀察  E、戶外遊  麥ノ成長  豆ノ成長  虫類採集  園内飼育  養蠶  鶏  兎  小鳥 小魚</p>	<p>一、園内道具  一、遊園區内ノ交通  一、所持品</p> <p>飛行機見學  陸上飛行機  海上飛行機</p>	<p>戶外散步ニテ  總テ觀察セシム  各自  町名、番地ヲ  覺サス  名前ヲ記  鳩園内  猿ハ公園ニ見  ニ行ク  繼續飼育  郵便飛行機  市内</p>

	遠足 汽車ニテ春ノ野邊 スズメ 巢と其の材料		川ほり汽船          つな引		川口 櫻井行 園屋根に巢がある  漁師町	
月	觀察主要項目 自然		人事界		注意事項 連絡	
五	一、渡り鳥 燕 飛ぶ速さ飛方翼尾、來る時季 歸る時季  二、養蠶 種紙。細蠶。給桑 成長—眠る事—脱皮する事 麥の穂 大麥、小麥 穂の時期  三、おたまじやくし		一、汽車(停車場見學)  一、園内及び近所建築  一、大工業  一、創立記念日 卒業園児共に		繼續觀察   園内にて幼兒 共に祝賀式を 行ふ	

月	觀察主要項目 自然	人事界	取扱注意事項 注 意 前 日 に 舊 節 句
一、麥及び豆の刈	<p>成長の變化 小川の中にて泳げる様 後脚の生える事 前脚の生える事 尾の短くなる事 四、犬 水中よる出る事の多くな る事 毛の色 頭 脚尾 食物の食べ方 五、櫻、梨、桃の毛虫 五月の草花 えにしだ せきちく あやめ 毛虫 色、體、大蛾、歩み方、脚の數 六、日の出入 東、西</p>	一、幼兒愛護日	<p>市内小學校聯合にて愛護運動に參加 園内觀察</p>

六

麥藁、麥藁細工、麥の粉、  
豆、えんどう、空豆、大豆、小

豆、藤豆

一、梅雨

濕度、かびの生える事

雨量と川、池、田の水量

一、新緑

近くの森にて木々の新緑

一、時季の果物

梅、桃、いちご、びわ

一、苗代

動物捕獲飼養

とんぼ、かたつむり、蝶

一、かへるの成長の様

保護色

田、川邊にて捕獲

一、園内ぶどう棚の手入

虫よけの方法

一、水車

一、水まき

五月 武者人形 幟

一、雨具

一、衣服更

帽子、傘、等

一、町の變化

氷屋、ラムネ屋の商店多くなる

水まき

一、港船

防波堤、船の出入

積卸する荷の種類

一、川の橋

鐵橋

五月節句祝賀  
式を行ふ

ちまき

草餅を共に食す

園にて五月人  
形を祭る

衛生

利用の方面

米揚

<p>一、笹舟 笹の葉の舟に作ること(川遊び)</p>	<p>月</p>	<p>七</p> <p>一、田植 一、田植使用の牛と馬 牛馬の違ふ點 一、貝拾ひ 川の貝と海の貝 一、ぶだうの取入 園内ぶどう棚の實を取らせる 一、朝顔の手入れ 各組に分けて手入れをしてゐる 色、形、卷方 一、蠶の手入 繭のかけ方、形、色、蛹、糸の 取り方 産卵、卵の數 一、夕立、虹、雲</p>
	<p>觀察主要項目</p>	<p>一、鹽田見學 海水より鹽となる迄、製造 一、汽車に乗る(鹽田見物) 燃料に石炭 水蒸氣が車を動かす 一、湯の心得</p>
	<p>人 事 界</p>	<p>一、製材、會社見學 杉、松、檜、栗、桐</p>
	<p>注意事項</p>	<p>暑の中に働く 人に對して同 情 牛馬を可愛が ること 汽車に乗る注 意 汽車の歌 一人海邊へ來 ぬこと 七月一日から七 月末日迄園兒 湯に入れる。 各組競争にて なす時知らぬ 間に蓄を取る などなき様注 意す 市内製材所</p>



	月	
<p>海岸地方特有の雲行 虹の色、出る時、半圓形、色の ならべ こうもり、螢、蟬、ばつた、い なご、蟻 昆虫類の多いこと 蟻 食物、力の強 集團生活、巢の所在 星の美觀 大きな、小 天の川</p>	<p>觀 察 主 要 項 自 然 界</p>	<p>一、二百十日及二百二十日の事 雲の美觀 一、花壇の手入 秋まきの種 一、種子の取り入れ</p>
<p>のこぎり、木が板となつて行く 様</p>	<p>人 事 界</p>	<p>虫 干 側風所 彼岸、神社參拜 墓參 タオル工場見學</p>
<p>昆虫類採集は 家庭の遊び 昆虫類を大事 にすること 管中の液體 舊七月七日に よる</p>	<p>取 扱 注 意 事 項 連 絡</p>	<p>園内大掃除 氏神様參拜 市内タオル工 場</p>

九	月	十
<p>一、秋の果實 ぶどう、いちぢく</p> <p>一、秋の虫 鈴虫、きりぎりす、こほろぎ、 ばつた、いなご、赤とんぼ</p> <p>一、渡鳥 雁、燕</p> <p>秋の雨、露</p>	<p>觀察主 然要 界項</p>	<p>一、秋の野原</p> <p>一、落葉</p> <p>一、花壇の霜よけ</p> <p>一、秋の田畑</p> <p>一、秋の果物</p> <p>くり、柿、松茸、山茶花、もく</p> <p>せい、コスモス、ススキ</p> <p>一、お月見</p> <p>一、遠足(川上)</p>
<p>病院見舞</p> <p>幼兒製作の花等を送る</p>	<p>人事 事界</p>	<p>舊九月節句 (菊の節句)</p> <p>糸さらし場見學</p> <p>菊見</p> <p>市内見學 製粉所</p>
<p>兒を分ちて各 市内病院へ見 舞に出發</p>	<p>取扱注 事項意 連結</p>	<p>地方特別に同 くされるを誇 となす所</p> <p>秋の田の稲に つき</p> <p>お月見會の遊 戲會を母の會 としてなす</p>

	月	一十
<p>水源 一、秋の海岸 一、秋雨 一、山の上の見はらし 紅葉 谷 丘</p>	<p>觀察 自然 主要 項目</p>	<p>一、秋の田畑 一、稻刈 一、きび刈 一、そら豆種まき 一、お菊見 一、紅葉狩 一、山のぼり ドングリ 一、初冬の景色</p>
<p>種々の粉が造られる事  各校運動會見學</p>	<p>人事 界</p>	<p>七五三の祝ひ 體育日 遠足(漆器製造見學) 森にて木葉遊び 市内各校參加音樂會 入營兵士の送り 敬老會參加 市中見物</p>
<p>母姉と共に 月見だんごを 造りて子供達 にやる</p>	<p>取扱 注意 事項 連絡</p>	<p>幼児或作品を 送る 市内各校參加 保護者其に見 學 市公會堂にて 音樂會を開く 驛迄見送り 市婦人會敬老 祝賀會參加</p>

<p>一、落葉 一、殘菊、ダリヤ、冬ばら 一、冬の果物 みかん、きんかん ネーブル</p>	<p>精米所 カジヤ 鐵工所</p>	<p>刈入の所から 順次見る 農業使用器具 工場使用機</p>
---	----------------------------	---

月	觀察主要項目	人事界	取扱注意事項
十	<p>十二月の景色 枯野、木枯、寒月、霜 風車 正月の仕度飾付 忘年会及び本年中使用玩具感謝日</p>	<p>十二月の町の變化 冬期使用の日用器具 火鉢、火爐 滿期兵迎 繩製造見學 餅搗き 各校聯合角力競争大會 市内商店 荒物屋、八百屋、家具、木屋、 呉服店、米屋</p>	<p>市内繩製造 選手優勝會見 學保護者共に感謝會を行ふ</p>
二	<p>十二月の野菜 大根、カブ</p>		

月	自然界	人事界	取扱注意事項
一	<p>一月の草花 福壽草 梅、水仙 南天 おもと、やぶこうじ 一、氷、雪 一、冬の仕度</p>	<p>一、四方拜 二、年賀 一、新年町の變化 門松 一、消防出初式 一、新年會 冬休中のお話會</p>	<p>保護者共に休 中の談話會及 び晝會を開く</p>

月	自然界觀察	人事的觀察	
二	<p>二月の花及小鳥 一、櫻、椿、紅梅、葉ばたん 水仙 鶯 一、梅見 一、雪遊び 一、猫</p>	<p>一、節分 (舊正月の町の變化)  魚市場見學</p>	<p>二度も正月と して祝ふ風あ り餅つき神飾り  大阪地方へ積 出す有様</p>

	<p>頭、耳、眼、鼻、口 鼠をとること</p>	<p>牛牧場見學 羊、ヤギ牧場見學</p>	<p>乳をとるところを見る</p>
月	<p>自然的觀察</p>	<p>人事的觀察</p>	<p>取扱注意事項</p>
三	<p>一、三月の野邊 春さめ 初春の山川 一、木の芽 彼岸櫻</p>	<p>雛祭り 綿ネル工場見學 彼岸神社參拜 墓參 謝恩會 就學のよろこびの旅 製瓦場見學 お分れ遠足 自動車 溫泉行</p>	<p>保護者に雛祭會を開く 園にて遊戲會 市内工場 園内にて保護者共に 市内工場 保護者共に</p>

# 幼稚園雜草と讀みて

長岡市 磨 須 子

「花としても飾るに足らず果實としても滋味ある

ものでない。たゞ雜草も枯れて後、土地の肥料になることのあるものだといふことを聞いて、小さい望みとしてゐるのである。」……何と云ふ謙

虚な序文でありませう。私は幾度之れを讀み返した事か。そして殆ど暗記してしまひました。幼兒と云ふ美花を培ふには余り貧弱な私の心！此の心の土に滋味豊かな肥料を與へて呉れた「幼稚園雜草」は私の保母生活中、忘れられない一事であります。

多くの書物の中から之程、反覆した本は少いでせう。讀めば讀む程興味の出る——へんな譬へで

すが丁度錫を噛みしめる時のやうに。

十四頁の「うるほひ」を讀了した時、私は涙で一杯になりました。長らくお遇ひ出来なかつた母のみ手に抱かれた時のやうな心持。語、の貧弱さや表現形式に疎い爲めに思ふ萬分の一も發表出来ないで惱んでゐる時に、此の間然する處のない大文字を拜見してホット救はれたやうな心持がしました。

何と云ふ美しい詩でせう、そうです、全く美しい散文詩で御座います。せめて最後の一節なりとも聲朗らかに、うたはせて下さい。

「草花と同じく、斷えずうるほひを要求して居る

ものは幼児である。

しかも如露よりも淺く小さく、直き涸れ易いものは我々の心である。

斷えず、うゝるほひの興へ手とならなければならぬ。我々は、又斷えず、うゝるほひの没み手でなければならぬ。」

## 寒 風

風が野を貫いてゆく。どこまでつめたい風なのであらうか。そのゆく處、觸るゝ處、もの皆荒み敗られぬはない。つれなや只一ひら残る梢の枯葉をだに吹き拂ひ振ひ落さではやまぬといふ。衰れや落された枯葉の群がまたもや、かさ／＼と吹きまくられてゆく。どこ迄きびしい追窮の風なのであらう。

省みればわが心にもこの風はあるまいか。わがゆく處、觸るゝ處、一陣荒涼のつめたさを現じ、苛酷のつれなさを擅にする様のことはあるまいか、

其の目、其の唇、風の様に人を貫き、割き、傷つくることはあるまいか。

風に荒らされた野は、また來ん春の恢復もある。一度び心の寒風の荒んだ心は、また恢復のよすがもない。

願はくば寒風をしてひとり野を吹かしめよ。わけても柔き子供の前に、わが怖しき寒風をして荒まざらしめよ。

## 我等の途

子供のお手本だと思へば苦しい。お手本は別にあつて、子供と一緒に其のお手本に進んで居るのだと思へばらくだ。子供の理想の標的だと思へば苦しい。理想の標的は彼方にあつて、自分も子供の先きに立つてそれへ向つて専心進みつゝあるのだと思へばらくだ。

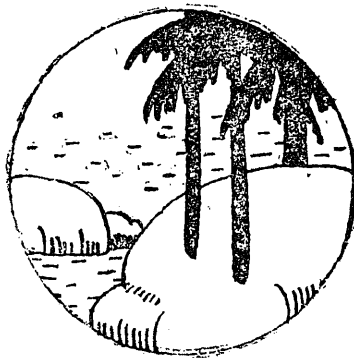
聖者には聖者の教育がある。完全者には完全者の教育がある。しかも我等には我等にでも出来る



教育がある。凡人浄土、凡夫即教育者。我等でも教育者になれる途がある。

餘りに長くなりますから之で擱筆しませう。只最後に『保姆その人』の題下で眞實に私達保姆の自重と發奮をうながして下された尊いおこゝろに衷心から感謝いたします。

幼稚園のバイブルとも云ひつべき「幼稚園雜草」を是非とも津々浦々にまで普及いたしたいものと日夜そののみ念じて居ります。(一・五・夜)



# あ　る　日

五八

お　ち　ば

## 模　様　作　り

自作の箱や籠を手には十人餘りの女兒は保姆と一緒に落葉ひろひに行く。はき清められた朝の道、ボカ／＼と陽あたりのよい屏をもれて晴れやかなカナリヤのさへずりが聞える。一同立止まつて耳を傾ける。

「雀？」と俊子さん。

「いゝえ」

「カナリヤでしょう、家のおとなりにもゐるのよ」  
通り道だったので睦ちゃんのお家へおかどから御病氣見舞をして行く、中央の通りには左側にふ

しん場がある、砂利を山のように積んで足場をかけ人夫が二人づゝでそれを高い所に運んでゐる、コンクリートの西洋館が建つところ。

「誰のお家？」「教會」

「お家の君ちゃんやお母様と口曜に來るのよ、それで唱歌をうたつたりお話ししたりするの」

和ちゃんは先生の代りに立派に説明をして下さる。

「あゝいてふの葉が」風もないのにハラ／＼と散つて來る。上をみると一週間前にこゝを通た時は見事についてゐた黄金の葉が上の方はまるで無く、ほうきのような枝が天へ向いて居り下枝にだけ少

しのこつてゐる、小さいのをよつて拾ふもの、美しいのをあつめるもの、たゞ澤山あつめるものとりぐ。

右側の學院の家根には臭氣ぬきの帽子のような風車がゆる／＼といくつもまわつてゐる。

「學校の屋上にも風車があるわね」と千代ちゃん、  
「でもこれは形が違ふでしょ」

「屋上のは球みたい(の様)のが四つついてゐる」と光子さん。

この邊は邸宅や學校が多いのでお清めのすんだ朝の通りは静ではあるが落葉ひろひにはあまりむきでなかつた。歩を早めて次の通りに出る。櫻、青桐、櫻、檜、楨、D邸の堀の外にはどんぐりも落ちてゐた。こゝで皆の箱や籠はいっぱいになつた。かへりには葉の澤山ついた大杏樹の下を通り籠にあふれるほどのおみやげをポケットにもいれスキップしながら校内についたのは豫定の四十分

を十分すぎてゐた。

お留守番のお友達にどんぐりやいてふをお裾分してから、一同は木の葉と、どんぐりの模様造りにかゝつた。落葉もお手々もよく洗つてから、湿布の上へ各自美しいと思つた葉をならべた。

「お客様ごつこのテーブル掛けにませう」落葉の模様にして」

圖案の上手なM子さんがお休みだつたので仕方なく保姆が大體の構圖をし、幼い人達のよい申出に従て模様はだん／＼に變化して行た、お隣のお室のK先生も來合せてよい助言を得、木の葉の位置は活きて來た。それからスミレクレオンで置いてある葉の色をみて寫生がはじまつた。お晝の時にはまだ出來かけだつたので模様作りの人達はお友達のお机に行つて食事をした。寫生にまだ興味をもたない人達は、園の庭から青桐の葉柄を拾て來てそれに通したりヒゴに通したりしてあそぶ。

子供も或人もその日をたのしみにまつてゐる。

(十一月二十七日)

## B 室

昨日井頭へ行たおみやげだと云て文子さんからいただいた、おかめどんぐりを割てナイフで線を掘てみた。それに繪具をつけて紙に押したら型がついた。朝お室でしてゐたら皆がしたいと云て代りく型をつけた。

動物園ごつこの切符に落葉の型を押してみようか、といふ事を成人が云ひ出した。小さい人達が皆賛成だつたので、筆とお皿とを用意して、繪具を溶いた。

「あゝ、チヨコレート色になつた。茶色に今、何の色入れたの？」

環視の可愛い、瞳はつぶらに光てゐる。

「なせ白いのをませるの？」

「僕にもやらせて」手の疲れた人と代り合て秀ちやん幸ちやんも葉の寫生をする。おかへりまでにドンダリの線だけがのこつたのでこれは明日にした。布に寫生をした子達は、布の上にクレオンを置かないこと、お手々を洗つてからでないと折角の模様が汚れること、お帳面へ畫くクレイオンでは布にはかけないこと、緑色が用意してなかつた爲、黄と青とで緑が出来る事などを經驗した。翌日になつたら水に入れて置かなかつた葉は大分ちぢれたり色を失たりした。中には水をつけると美しくなるのもあつた。ドンダリの色は昨日と變らなかつた二日目の午前中に模様は出来上た。

水に浸してからアイロンをかけ、朝毎に早く登園した人達でまわりをかつて合作のテーブル掛が出来た。

「お正月になつたらこれをかけてお客様ごつこをませうね」

「水でうすくすると葉の形がよく紙につかないから」

「楓は赤いから赤いのも作つてね」

「端の處が黄色くなつてゐてよ、それから黄色ばかりのもあつてよ」

幼い人達の言葉に従つて茶、黄、緑、紅、チョコレート色、黒の各種が溶けた。切符の紙には丁度はまる位な大さの葉がもつとあるといふけど、といふのを聞いて壽郎さんが、

「僕知てゐる、拾つてあげよう」

「僕も」と茂ちゃん

山吹やどうだん、にしき木の葉が學校のまわりからひろひあつめられた。葉に繪具をつけたのを紙にのせたら動かないようにする事、筆は氣をつけて置かないと方々へ轉て汚すこと、繪具が干かないうちに觸ると、形がぐづれる事などを経験しながら種々な木の葉の形が押し出された。日向に

ならべて、かはかす者、作る者、代り代りにして百枚餘りの葉型はわずかの間に出來上る。

「先生いつ動物園ごつこするの？」

「誠さん達の作つてゐる象のお家が出來たらね」  
「さうは、もうぢきね」動物園ごつこはこうして組中のだれもの、めあてになつて行きます。

「先生、またこんなきれいなのが」まさ子さんは櫻の落葉を兩手にして來ました。「ちやそれで入口の飾りを作りませう、細いはりかねで貫して葉綴りが出來ます。

## C 室

四歳の雪子さん、一さんも一處に持ちきれないほどたくさんさんの青桐の落葉を拾ひました。

軟かい葉もあります、がさ／＼音のするものもあります。葉をむしつてごちさうが出來ました。棒（葉柄）の中には、なか／＼折れないのと、一寸

力を入れるとポキツとすぐ折れるのとあります。小さい手に丁度握り良いお箸が、たくさん出来ます、墨をしいた上にお座りして落ち葉のごちさうごつこがはじまりました。先生がお母さん、私お姉さん」元氣な京子さんはいそがしさうです。そこへ敏郎さんや健ちゃんがまた一抱へづゝ落葉を拾て来ました。「向にもおはなれを作りませう」先生はうすべりを二枚持てきてまたお家を作って下さいました。晴れやかな光線が、秋の色豊かな室内に子供と踊つてゐます。

## A 室

勇太郎さん、宏さん達はお掃除の出来た校庭で元氣にかけっこをしてゐましたが、先生が櫻の木の下で何か他の友達とさがしていらつしやるので行てみました。きれいな紅や黄色の葉がおちてゐるのです。「僕もつ」さうして探してゐるうちに緑

色のも、茶色のもありました。皆が拾へた時、これを寫生しようといふ事になりました。日常本校のお兄さんやお姉さん達の寫生を見慣れてゐる幼児には寫生は大變たのしみでした。お室の机にならべて一心にかきはじめました。虫喰のやぶれ、黒い班點、暗緑の班點、つやのいゝ茶色、くすんだ茶色、密腺、成人は無言でも幼い人の目はよくありのまゝをうつして行きます。一枚出来た敏彦さんは「僕、もつと他の葉を拾つて来る」と庭に行きます。るりの大空に、細い落葉に輝かしい秋の色は子供のまはりにみちてゐます。

しばらくしてC室では幼い人達が木になつたり葉になつたりして室中を踊てゐました。

(十一月三十日)

# 海の上

土川五郎振

走るは……………左へ駈足四歩。

汽船か……………左右一步左へ左膝ヲ屈シ右膝ヲ伸バシ上體ヲ左ニ傾ケ兩手ヲ左右ニ開ク（掌下ニ兩手ハ

床ト平行スル様ニ）

軍艦か……………眞直ニ正面ニ向キテ立チ兩手ヲ頭上ニ伸バス（掌ハ向キ合セテ）

か……………右膝ヲ屈シ左膝ヲ伸バシ上體ヲ右ニ傾ケ兩手ヲ左右ニ開ク。

とまるは……………開キタル兩手ノ食指ヲ出シ他指ヲ握リ左右ニ開キタルママ上下ニ動カシツ、右足へ駈

足四歩。

りようしの……………右足一步出シ左膝ヲ床ニ蹲踞シ右手ヲ伸バシ右食指ヲ出ス。

つり船か……………水ノ上ヲ見ツ、右食指ヲ靜カニ上下ス。

黒い煙や……………兩手ヲ前ニ外ヨリ内へ手頸ヲ廻ハシツ、上へアゲルトキ直立ス。

白い……………右足ヲ右へ伸バシ左足ニテ跳ブ、此ノ時左肱ヲ曲ケ左前膊ヲ立テ右手ヲ右方肩ノ高サニ

伸バス。

帆や……………右手ヲフゲ左手ヲ伸バシテ右足ニテ跳ブ。

汽笛の……………兩足ヲ揃ヘ兩手ヲ指先ヲマトメテ胸ニ取ル。

音や……………左右斜上方ヘ兩手ヲ伸バシ指ヲ開ク。

ろの音や……………左足一步前ニ兩手ヲ握リ櫓ヲ漕グコト二回。

あゝ面白い……………左足一步アトヘ兩手ヲ體前ニテ下ヨリ打チアゲ、次ニ右足ヲ引キ同ジク兩手ヲ打チア

グ。

海の上……………右足一步右ヘ兩手ヲ打チ下ロシ上體ヲ右ニ傾ケ兩手ヲ左右ニ開キテ上下ニ微動セシム。



# 海 の 上



ハ シ ル ハ キ セ ン カ ジ ャ ク ン カ  
 ト マ ル ハ リ ョ ウ シ ノ ツ リ ブ ネ カ  
 ク ロ イ ケ ム リ ヤ シ ロ イ ホ ヤ  
 キ テ キ ノ オ ト ヤ ロ ノ オ ト ヤ  
 ア ー オ モ シ ロ イ ウ ミ ノ ウ ヘ

## 海 の 上

走るは汽船か軍艦か

とまるはりようしのつり船か

黒い煙や白い帆や

汽笛の音やろの音や

あゝ面白い海の上

# 嵯峨野の膳女史

倉 橋 惣 三

## 一

前大阪江戸堀幼稚園長膳直規子女史は、年來の宿痾のため、職を辭して専ら靜養したいといふ希望をもつて居られたが、老女史の健康のためには周圍も強ゐてお引止めすることが出来なくなり、先般全々退職せらるゝに至つた。我國保育界のために、頗る寂寞の感にたえないものがある。

## 二

女史に就ては、更めて紹介の要もないことであるが、青木藩西山明教氏の女として元治元年江戸三田古川の邸に生れ、明治七年以來、同家と共に大阪に居住し、明治十九年膳龜三郎氏に嫁された。

幼名たけ子、後に眞規子と改められたのである。

之れより前、明治十四年十月大阪府立模範幼稚園保母見習生を拜命。之れが、膳女史の幼兒保育界に入る第一歩であつて、爾來四十五年の久しき、一つに幼稚園教育者として、一貫せられたのである。殊に、終始大阪市に勤続せられたことは、そのこと自身が既に非凡の生涯といふべきではないか。更に、遠く當時のことを思へば、全く我國幼稚園の初期に屬し、東京に一箇、大阪に二箇、鹿兒島に一箇といつた時代である。幼稚園といふものに對する一般の理解も亦察すべきである。此の時代、進んで幼稚園の人となることは、その先

見と、而して勇氣とに敬服せざるを得ないのである。

令姉氏原銀子氏の感化による處あつたとしても、女史自身の内面に、何か幼稚園の人となるべき強い自然の因縁の先在したことと思はざるを得ない。四十五年の保育生活も亦、一つに、その貴き若き日の決心の發展に他ならない。

府立模範幼稚園は明治十六年七月、府の經費上の都合によつて廢園せられた。殊に極めて突然の廢園であつたといふことである。若き女史等の失望、誠に想見すべきものがある。しかも、より失望したのは、その園兒の親達であつた。直に相談して十名の親達が一名廿圓づゝ據出し合計二百圓を以て、模範幼稚園の拂下げを買とり同年十月から中洲幼稚園と名づけて保育を繼續することになった。女史は令姉氏原氏と共に引つゞき保育の任に當られたのである。私は此事實を以て、女史等の保育が、如何に當時の親達を満足させてゐたか

を思はざるを得ない。

### 三

明治十七年文部省の幼稚園獎勵の發令以來大阪にも、幼稚園の數が増加するに至り、各區から女史等に對しても、優待條件を以て招聘せんとするものが多くなつた。しかも、女史等は從來の情誼を重んじ、模範幼稚園の關係上、令姉氏原氏は北區幼稚園に、中洲幼稚園の關係上女史は西區幼稚園に、各奉職することにされた。それは明治十八年のことであつて明治廿六年西區幼稚園の廢園と共に新設された同區江戸堀幼稚園に奉職、爾來、引つゞき同園に勤務せられたのである。江戸堀幼稚園の名が、如何に我國の保育界に著聞し、關西保育界視察者の先づ第一に訪ふ處であつたことは更めて言ふ迄もない。

膳女史の江戸堀にあるや、單に、同園のためのみならず、全大阪市保育界のために、たえず多大

の盡力をせられ、その貢獻の數々は實に舉げつくせない位である。しかし女史の場合、その貢獻の最大なものは、事業の畫策よりも、實に人その人であつたのである。女史の人格そのものが、何より一番大きな意義をもつて活いてゐたのである。殊にその謙虛、全く己れを虚ふして、一點一毫の野心を混ぜざる心事と、之れに加ふるに、寛厚溫和、春風の如き調和性とが、いつでも、大きな存在であつたのである。

#### 四

退職後の女史は京都市外の嵯峨の新居に閑を養ふて居られる。近信によると、まだ眼がよくならないといふことである。私達は、まだ／＼保育界のために多くのお力を借りなければならぬと思ふのでもあるが、また一方には、健康專一を祈らすにも居られない。大阪保育界には多士濟々である。直接のことは、若い方々によつて充實もされ、發

展もされるであらう。女史には、健康を恢復せられて、益々輝かしい溫顔を以て、我國保育界の心を慰めもし、勵ましめて下さる様に願ひ度い。否もつと私情をいへば、假りに何も手傳つて下さらなくても、われ／＼幼稚園關係者が、如何に女史の偉き貢獻を感謝してゐるかを思はれて、幼稚園のために、いつまでも心の同志であつて頂けばいい。江戸堀幼稚園にある女史の壽像も、幼稚園令發布紀念全國保育大會から、幼稚園功勞者として贈つた置時計も、女史に對する此の感謝の極く少しいあらはしに過ぎない。而して、われ等の深い感謝を以てしては、女史が、江戸堀にありと嵯峨にあるとに拘はらず、女史が我國の幼稚園の人であることに、いつまでも、何の變りもないのである。嵯峨野の膳さんは、其勝景に圍まれて、今、何をしてゐられるか。若し、昔幼稚園で使はれた二絃琴でも出して弾じてゐらるゝのなら、私は馬に乗つて、笛を吹きながらお訪ねして見たいものだ。

## 雜 錄

### 福岡市の保育狀態

福岡市保育會  
副 會 長 荻野 ヒサ

當福岡市の保育狀態は御報道申上るにも恥かしき次第であります。けれどもおくれ走せ乍らも最近著しく市民の覺醒狀態が事實に現れ大體に於て進歩發展しつつあることを衷心慶賀に堪へず御一報申上ます。

當福岡市は各教育機關の完備せるにも不拘是迄幼兒教育には殆んど省みられて居なかつた感がありました。然るに大正八年以後數回に亘つて全國保育者大會出席者よりの報告又は其都度各都市に於ける保育狀態の視察談及び福岡市教育會縣教育會より派遣されたる保育視察員の報告談等ありて

數々幼兒教育上の覺醒を促され又

大正十年一月は土川先生を聘し市内各幼稚園主催福岡幼稚園母の會、福岡日日新聞社九州日報社の二大新聞社の後援にて遊戲講習會を開催し

大正十一年五月八日には又同上の通り各國主催母會、二大新聞社後援にて幼兒愛護デーを催し二萬のビラを撒布し二千三百名の幼兒の旗行列をなし九大伊東博士、荒川博士の御講演を仰ぎ眞の愛護の意義並に幼兒の體質につきまして一般に對して講演を公開し、

大正十三年八月十一日より三日間に亘り同上各園の主催同上母會二新聞社の後援の下に倉橋惣三先生、九大諸岡存(博士)先生、杉江春男(教諭)先生に願つて幼兒教育講習會を開催し市内並に九州各縣の保姆並に母の會員、小學校教員等一百四十名の聽講者を集め講師の熱誠により益々深刻に幼兒教育者の了解を得たり。

爾來渴望しつゝありし市内各幼稚園保姆は研究機關の施設なきに苦しみつゝ空しく各自の獨習に依りて區々なる教育をなしつゝありしが、

本年度に入りて各幼稚園保姆全部の奮起する處あつて多數の有識者愛兒家の贊助を得市視學今村貞太郎氏を會長に仰ぎ福岡市保育會なるものを創設し、九月二十三日には縣公會堂に於て發會式を舉げ當局の賛辭をも受けたり、毎月一回正會員なる市内幼稚園の保姆は一室に集參して相互の研究發表、質問の討議、意見の交換等をなし保育の統一向上を計りつゝあり。尙昨年より本年に至る一ケ年間に二つの幼稚園すら新設されたり、尙又各幼稚園とも母の會なるものゝ組織成立し皆眞剣なる活動ありて誠に日進の状態を呈して居るのであります。

又今回は市保育會最初の事業として十一月廿九日より三日間幼兒愛護宣傳を保育會主催各園母の

會後援福日九州兩新聞社の後援の下に二萬のビラ二萬の趣意書一萬のマークを撒布して最後の十二月一日を聯合遊戲、音樂會に當て六歳以下の幼兒を主客として母姉を附添人として便宜上（此日雨天）一つの劇場に招き、各園々兒交互に登場し平常の遊戲及唱歌を唱ひ且又遊び一面に母に享樂一面弟妹愛擁の意味を以て一日を楽しく子供の爲めに捧げ大人の爲めに捧げ幼稚園なるものの了解を濃厚にし頗る成功を認めました。

又博多幼稚園は本年度に入り博多財産區解散に依り其會より七千圓の寄贈を受け爾來一層母の會幹事諸氏の熱誠なる奮闘により幼稚園經營の組織を變更され既に財團法人の認可をも得られ園舎擴張の準備として移轉の豫定をも得られ新築計畫中にて其費用の大半は既に有志家の寄附をも得られれば園長並に母の會幹事其他關係者數名同伴視察の爲め關西地方に出張歸博し着々進捗の狀況で

あります。

今回の愛護デーに際しては各園の母の會は期せずして一致聯合の活動振りを現はした事は美談とする價值ある表現だと感激いたしました。

尙來る十六年には九州保育者大會を福岡保育會主催の下に開催すべく目下準備中であります。

最後に臨んで私立福岡幼稚園は左の通り福岡市教育會に提供しました。教育會よりは末だ何等の回答はありませんが單に書面だけでは受付てあります。

私立福岡幼稚園經營者より福岡市教育會に提供した財産目錄、添えたる書面の寫し

寫し

大正十五年十一月五日

私立福岡幼稚園主 荻野 ヒサ

福岡市教育會支會長 白坂榮彦殿

幼稚園に寄附に關する件

不肖儀明治三十六年福岡幼稚園を創立し爾來今日まで獨力之れを經營し來り候處今や幼児教育の進歩著しく一私人の經營よく之れを完ふし得る所にあらず加ふるに不肖老年激務に堪へず徒らに留まつて幼児教育の發達進歩を妨げんより寧ろ退きて之を貴會の如き有力なる團體に移し以て幼児教育の完全なる發達を期するに如かずと存じここに別紙目錄の通り福岡幼稚園全財産を提供し貴會の經營に移されんことを希願に及び申候。

追て園舎其他設備の全部を提供の意志に候へども敷地まで提供するの餘裕無之貴會移管後なるべく早く他へ移轉方併せて希望申上候

目錄略省

右

因に記します、園舎は全部經營者の私財を抛つて大正十一年建築したるものピアノ其他は保育終了兒及母の會の寄贈に依るもの計購入價格五千圓であります。

# 定 規 文 注

# 告 稟

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
- 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。
- 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に
- 一、本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

## 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會

- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
- 一、日本幼稚園協會員外にて本誌購讀文の方は前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

# 告 廣

特等面一頁 金參拾圓  
二等面一頁 金貳拾圓  
一等面一頁 金貳拾五圓  
一頁以下御斷  
神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

## 發行所 日本幼稚園協會 振替口座東京一七二六六番

不 許 複 製  
禁 轉 載

編輯兼 堀 七 藏  
發行所 東京市牛込區山吹町一九八  
印刷者 大 杉 直 次 郎  
印刷所 大 杉 印 刷 所

（外國行郵税は 部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）  
昭和二年二月十日 印刷  
昭和二年二月十五日發行  
幼兒の教育 第二十七卷第二號

# 價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共



書 備 必 庫 文 童 兒

子供達はこ  
の讀本によ  
つて世界文  
學の大系を  
領解すると  
共に、その代  
表作を面白  
く味ふこと  
が出来ます。

一 卷

ハウプトマン物語  
芥川龍之介物語  
トルストイ物語  
平家物語  
ギリシャ神話物語  
謠曲狂言物語  
シエクスピヤ物語  
菊池寛物語  
アンデルセン物語

二 卷

夏目漱石物語  
マーテルリンク物語  
坪内逍遙物語  
テニソン物語  
印度神話物語  
竹取物語  
ユーゴー物語  
古事記物語  
アラビアンナイト物語

三 卷

ロビンソンクルソーダ物語  
島崎藤村物語  
グッリム物語  
瀧澤馬琴物語  
ゴキリ物語  
幸田露伴物語  
ワイルド物語  
シラ物語  
浄瑠璃物語

# 世界名作物語讀本

佐

藤

武

編

著

各 三 八 〇 頁

各 送 料 拾 六 錢

株式 文教書院

東京市牛込區赤城元町

振替東京四四三三番  
電話牛込三一七九番

# 卒業生への

## 贈物と

### 新入生に

#### 買はせる品々

- ☐ 手技帖

六錢, 八錢,  
九錢, 十三錢
- ☐ 折本型

十七錢, 十九錢
- ☐ 寫生盤兼掛額

廿錢
- ☐ お道具箱

大小 一圓廿錢  
一圓十錢
- ☐ めりゑ

1, 2號 各三十錢
- ☐ 自由畫

十錢, 十八錢



幼兒の成績を帖にして卒業を記念すること。

新入園兒に寫生盤以下をお買はせになること。

右二項は各御園一般の風習となりました。



町谷ヶ指区川石小京東  
**館ルベール** 株式會社

一〇三六川石小話電  
 〇四六九一京東替振